

「明治三十七年八月」
聯合艦隊司令長官東郷平八郎日記について

堀口 修

ここに紹介する史料は、聯合艦隊司令長官東郷平八郎（一八四七～一九三四）が日露戦争時の明治三七（一九〇四）年二月五日から同年八月一四日までの間に書き綴った日記である。日記には表題が記されていないので、本稿では「明治三十七年八月聯合艦隊司令長官東郷平八郎日記」と表記する（以後、「東郷日記」と記す）。

東郷は、弘化四（一八四七）年二月二三日、薩摩藩士東郷吉左衛門の四男として生まれた。妻は海江田信義の長女テツ。六歳の時、米国東インド艦隊司令長官ペリーが浦賀に来航。以後、日本の開国をめぐる政治議論が湧き上がり、時代は激動の幕末・維新时期を迎える。そして日本は、世界の中の日本、自立・独立する日本を国家目標として、凄まじい近代化を推し進める。東郷も薩英戦争（東郷一七

歳）をはじめ幾多の戦争・戦闘に参加し、激しく揺れ動く時代を生き抜いていくことになる。そして彼の海軍軍人としての経歴は、日本が近代化に邁進し大きく発展していった時代と軌を一にするかのように激しいものとなる。そのことを確認するために彼の主立った経歴を左に記す。

明治 元年 一月 春日乗組。

三年 二月 竜驥艦見習士官。

四年 三月 イギリス留学。⁽³⁾

六年 二月 同七年一二月、ウースター商船学

校在学。

八年 二月 英艦ハンブシャー乗組。

一一年 五月 帰国。

七月 中尉。

- 八月 扶桑乗組。
- 一二月 大尉。
- 一二年 九月 比叡乗組。
- 一二月 少佐。
- 一三年 一月 迅鯨副長。
- 一四年 二月 天城副長。
- 一六年 三月 第二丁卯艦長。
- 一七年 五月 天城艦長。
- 一八年 六月 中佐・主船局。
- 一九年 五月 大和艦長。
- 七月 大佐。
- 九月 〓同二〇年一月、同二〇年七月〓同
二一年三月、病氣療養。
- 一一月 浅間艦長。
- 二三年 五月 呉鎮守府参謀長。
- 二四年 二月 浪速艦長
- 二六年 二月 〓五月、同二六年一月〓同二七年
四月、ハワイ回航(日本居留民保護)。
- 二七年 四月 呉鎮守府海兵団長。
- 六月 浪速艦長。
- 二八年 二月 少将・常備艦隊司令長官(第一遊撃
隊司令官)
- 一一月 将官会議議員。
- 一二月 〓同三二年一月、兼海軍技術會議
長。
- 二九年 三月 海軍大学校長。
- 一一月 将官会議議員。
- 三一年 二月 海軍大学校長。
- 五月 中将。
- 三二年 一月 佐世保鎮守府長官。
- 三三年 五月 常備艦隊長官。
- 三四年 一〇月 舞鶴鎮守府長官。
- 三六年 一〇月 常備艦隊長官。
- 一二月 〓同三八年一月、第一艦隊長官。
- 一二月 〓同三八年一月、兼聯合艦隊司令
長官。
- 三七年 六月 大将。
- 三八年 五月 日本海海戦で露国バルチック艦隊を
撃破。
- 一二月 軍令部長。
- 四〇年 九月 伯爵。
- 四二年 二月 軍事参議官。
- 四四年 四月 〓九月、英国皇帝戴冠式参列のため
英国出張。

大正 二年 四月 元帥。

三年 四月 同一〇年三月、東宮御學問所総裁。

昭和 九年 五月 薨去・侯爵。

東郷の経歴中、最も光彩を放つのは聯合艦隊司令長官として日本海海戦で露国バルチック艦隊を撃破し勝利したことにあることはいままでもないが、それ以外にもハワイが米国に併合される際の日本居留民保護（明治二六年～同二七年）、日清戦争時の高陞号事件（明治二七年）、東宮御學問所総裁としての業績、昭和五年のロンドン海軍軍縮条約締結問題など、重要な役割を担っている事柄が彼には多くある。これからはこうした面にも注目し、彼の歴史的役割を検討・分析しなければならないのではないか。

近時、東郷は思わぬことから近代日本を評価する際の題材にされた感がある。このため戦前よく語られた日本海海戦を勝利に導き日本を救った大提督、大国ロシアの圧力をはねのけたことが北欧やアジアで同様の圧力をうけている国々に大きな励ましとなった、との人物評価が繰り返された。そこでは東郷は恰も「帝国日本」の守護神が如き英雄像となつて立ち現れる。以前から多くの研究者がそうした視点のみから東郷を絶対評価する危うさを指摘していたにも拘わらず、である。

しかし他方で田中宏巳氏、野村実氏、宮永孝氏等は、

しつかりした実証研究を積み重ねてきている。⁽⁵⁾そこで語られる東郷像は本当に新鮮であり、また説得力があり、これからの東郷研究のあり方や方向性を如実に示しているように思う。そうした研究を踏まえれば踏まえるほど、東郷研究は一次史料から着実に進むなければならないことが実感される。

ところで我々がよく知る東郷像は、小笠原長生が作り上げたものを基としていられる⁽⁶⁾。小笠原は、ながく東郷の身近に仕えた人物。彼は東郷の伝記編纂に際し海軍の協力も得ながら、東郷の公私にわたる史（資）料や聞書等を縦横に活用することができたという。このため彼が作り上げた東郷像は、他の追隨を許さないレベルのもので、これを超えることは困難とも言われている。その上、小笠原が用いた東郷の公私にわたる史（資）料や聞書等が現在どこにあるのか、またそれは東郷研究に用いることができる状態にあるのかという点について、はっきりとしたことが言えない状況にあるのが実情である（勿論、戦災・廃棄等で失われているものもあるが）。こうしたことから田中氏、野村氏、宮永氏等は、一次史料の発掘に多大の労力を注いだのである。それでも東郷の一次史料は充分ではない。小笠原が作り上げた東郷像の影響は依然として大きい。であるならばこのギャップを埋める作業を根気強く続けること

が東郷を研究する者に求められる。筆者もそうした観点から東郷の史(資)料を調査している。

さて、「東郷日記」の話に戻そう。実は日記については、すでに昭和一五年に聖将東郷全伝刊行会から刊行された小笠原長生編著『聖将東郷全伝』第二巻で紹介されている。しかしこの時は、そのごくわずかな部分が写真四枚に納められて紹介されるというものであった。紹介された部分は左の日付のところである。

第一枚 日記の書き出し部分である明治三十七年二月五日、
六日、七日(但し最初の約三分の一位の部分)

第二枚 同年四月一三日(但し最初の約五分の一位の部分
なし)

第三枚 同年五月一三日、一四日、一五日(但し後半約
半分位の部分なし)

第四枚 同年八月九日(但し最終行の部分のみ)、一〇日
(但し最後のごく僅かな部分なし)

また日記の全内容は、『聖将東郷全伝』が昭和六二年に国書刊行会から復刻された時、その別巻に戸高一成編「東郷長官戦時日記(自明治三十七年二月五日至明治三十七年八月十四日)」と題して全文が翻刻された。しかし戸高氏の解説によると、この時翻刻されたものは原本からのものではなく、海軍大学校研究部嘱託・海軍少将市来崎慶一が昭和

一四年に海軍省から借用して複写したもの(海軍文庫所蔵)を底本に翻刻したという。そして当該複写本の最初と最後の部分につきのような書き込みがあることから原本借用の経緯と複写の方法が理解される。

(最初の部分)

一、本東郷大将「明治三十七年戦時日記」ハ昭和十四年三月八日ヨリ同三月廿二日迄ノ間ニ於テ当校戦史研究資料トシテ複写シタルモノナリ

二、戦時倥傯ノ際真ニ自己ノ心覚ヘ迄書留メ置カレタル日誌ナルヘキヲ以テ往々当字、省略字、発音「ナマリ」ト思ハルルモノ多キモ明カニ誤字思違ヒト思ハル、モノ、外ハ可成原文ノ保存置複写セリ

三、本日誌複写ノ責任者

嘱託 海軍少将 市来崎慶一

(最後の部分)

昭和十四年三月八日 海軍大学校研究部

嘱託 海軍少将 市来崎慶一

海軍省 副官 殿

東郷元帥日誌借用ノ件

明治三十七年東郷元帥日誌 一冊

右昭和十四年四月十日迄借用ス

(終)

この市来崎少将の複写のおかげで日記の全内容はわかるが、それがどのようなものに書かれたものなのか、即ち当日日記に書かれたものなのか、或いはノートなどに書かれたものなのか、という点については全く理解できない状況にあった。しかしここで紹介する「東郷日記」は、まさに市来崎少将が手にして書き取った日記そのものなのである。ここにようやく「東郷日記」の姿が明らかとなった。この日記は現在、東郷神社（東京都渋谷区神宮前）が所蔵している。同神社の御許可をいただいて調査した結果、つぎのようなことが新たに判明した。

一、日記は、紺色の表紙のノートを使用し、縦書きで書かれている。

二、ノートのサイズは、縦二〇、五センチ、横一五、八センチ。

三、ノートは、全一三九枚。但し七八枚目から一三七枚目までは無記入。

四、ノートは、つぎのものから構成されている。

①明治三三（一九〇〇）年北清事変時の中国での日

本の艦隊動向等に関する簡略な記述。⁽¹¹⁾

②日露戦争時の日本艦隊の編制・動向等に関する簡略な記述。

③「東郷平八郎日記」。本日記は、二六枚目から七七枚目までに記述。⁽¹²⁾

そこでつぎに「東郷日記」の内容を若干紹介してみたい。既述したように日記が書かれている時期は、日露戦争時、即ち日露両国の国交が断絶した明治三七年二月五日から黄海海戦後のウラジオストク艦隊との海戦である蔚山沖海戦が起きた同年八月一四日までで、内容は聯合艦隊司令長官東郷平八郎を中心として起きた軍事上の事柄を書き綴ったものである。具体的には開戦直後の旅順奇襲・仁川沖海戦、所期の目的を中々達成できなかった第一次から第八次の旅順攻撃や第一次から第三次の旅順港口閉塞、充分な戦果とは言えない結果となった黄海海戦や蔚山沖海戦の各戦闘状況及び損害状況等、軍事関係を中心とする情報や、旅順攻撃・旅順港閉塞・黄海海戦に際して天皇、皇后、皇太子から賜った勅語・令旨等について記述されている。⁽¹³⁾筆者がさきに紹介した『東郷元帥手記 戦時懐中手帳』⁽¹⁴⁾（以後、『東郷元帥手記』と称する）と比較すると、「東郷日記」は各戦闘状況等についての情報が豊富・濃密で、且つ書き方も整えられている。『東郷元帥手記』が懐中手帳という性格

から各種情報の初期段階のものが書き込まれ、他方「東郷日記」はそうした情報を整え、より正確な記述がなされたものとなっているのではないか。即ち各戦闘状況等は時間が経てば経つほどより正確、且つ豊富となるから、そのことが「東郷日記」に反映している、即ち「東郷日記」は『東郷元帥手記』より後に書かれたものと推定する。

そこでそのことを示す例を右の『東郷元帥手記』と「東郷日記」から確認してみよう。

○第二次旅順港閉塞（三月二十七日）の記事（海軍少佐広瀬武夫、上等兵曹杉野孫七等の戦死）

・『東郷元帥手記』

第二回閉塞

三月廿七日

午前三時比、旅順口エ閉塞隊四隻進入港口。黄金山下ニ沈置爆発ス。戦死広瀬少佐、杉野上等兵曹、小池二等機関兵、菅波二等信号兵曹、島田中尉重傷者九名。

死傷計十三名 内死四名

・『東郷日記』

閉塞

三月二十七日 曇少シク雪降 日曜（第二回閉塞）

午前三時ヨリ旅順口方面ニ砲火。頻リニ盛ナリ。閉塞隊進入ノ時ナラン。午前六時五十分ニ至ル迄テ砲台ヨリ射撃ス。午前八時三十分、駆逐隊ノ一艦旅順口方面ヨリ帰り来ル。福井丸人員ヲ収与セリ。閉塞隊ハ四隻皆港口ニ進入。自ラ爆発セリ。戦死者広瀬少佐、杉野上等兵曹、小池兵曹外九名。合計死傷者計十三名、内死者四名。其他ニ不明ナル者アリ。

○黄海海戦（八月一日〜同一日）の記事

・『東郷元帥手記』（八月一日と同日のことを合わせて記述している）

八月十日 敵艦隊 出動戦

午前九時、敵艦隊続テ出港スル報知ヲ得タリ。又午前十時、老鉄山下ヲ南下ス報知アリ。直ニ総艦艇ヲ出動セシメ遇岩沖ニ向フ。敵艦隊ハ ツレサレウイッチ、レットウイサン、ヘレスウイット、ポピエタ、シパステボル、ボルタワ、デアナ、パラタ、アスコリット、ノルピック外ニ水雷艇八隻病院船舟一

隻、凡南々東ノ方向ヲ取り出動ス。午后一時十五分、九千メートル巨離^(艦)ヨリ砲戦ヲ始ム。敵艦隊方向ヲ変セス山東岬角ニ向フ。続テ砲戦激烈。夜ニ入ル迄追撃ス。日没シテ水雷艇駆逐艦ヲ襲撃セシム。艦隊ハ彼レノ脱航ヲ考慮シ、山東岬角青島沖ニ先進シ脱走ヲ制ス。

翌朝五時ニ至リ反航シ敵ノ所在ヲ探索シツ、旅順口沖ニ進行ス。

午前七時、敵ノ駆逐艦ヲ発見シ春日ヲ以テ追撃セシム。第三戦隊ハ青島沖ニ於テ敵ノ駆逐艦ヲ海州邑方面浅海ニ追込ム。第六戦隊ハアスコリットヲ追撃シ黒山島方面ニ失走セリ。

・「東郷日記」

八月十日 晴

午前六時、円島方面ニ譚フ。午前七時、「ノルビツク」出港ノ報扶桑ヨリ通信アリ。昨夜中旅順背面ノ砲火ハ断ヘス顕ハル。午前六時、日進、春日ハ昨日ノ如ク小平島沖陸軍応援ノ為メ進行ヲ令ス。午前九時、扶桑ヨリ敵戦艦二隻出港。続ヒテ後トヨリ出港スル者ノ如シ。午前十時、敵艦隊ハ老鉄山下ヲ南ニ

向フ。渤海湾ニ出動ス、暫時ニシテ南西ニ向航スト報アリ。我カ艦隊ハ総艦隊ヲ出動セシメ遇岩ノ北方ヨリ南西ニ方向ヲ取り、暫時ニシテ敵艦隊ハ「ツレザレウ井ツチ」、「レットドワイサン」、「ペレスウ井ツト」、「ポビエダ」、「シバステボル」、「ポルタワ」、「ヂアナ」、「パアラタ」、「アスコリット」、「ノルビツク」、水雷艇八隻、病院舟一、艦隊ヲ縦陣シ出動シ来リ。

午后一時十五分、九千メートルノ巨離^(艦)ニ近ク。彼我砲戦ヲ始ム。我カ隊列ハ縦陣ニシテ返航シツ、交戦シ、次キ十六点航路取り敵ト平行ニ運動ヲ取り、先頭ヲ押ユル為メ先キニ出テン事欲シ行動ヲ取ル。竟ニ日入ニ至リ^(ルカ)まで徹戦ス。夜ニ入り水雷艇、駆逐艦ヲ突撃ヲ命ス。本隊ハ敵ノ脱出ヲ慮リ山東角沖ニ行動ヲ取り、白翔島^(滑か)方面ヲ翌朝警戒ヲ期シ運動ヲ^(スカ)ル。翌朝返航シテ敵ヲ索偵シツ、旅順沖ニ向フ。

八月十一日 半晴

午前六時、旅順沖ニ向キ返航ノ途中、敵ノ駆逐艦一隻ヲ見ル。直ニ春日ヲシテ追撃セシメタルモ山東角沖ニ向キ疾走シタリ。

午前十時、松島ヨリノ報告ニ「デットウ井サン」、

「ペレスウ井ツト」、「ポビエダ」、「シパステボル」、「ポルタワ」、「パラタ」六隻港内ニ入ルト通信アリ。「アスコリット」、「ノルビク」ハ第六戦隊ノ襲フ途中、仁川沖ニ於テ所在ヲ失シタルト通信アリ。又駆逐艦二隻ハ海州邑沖ニ於テ千年追襲セシモ、竟ニ浅海ノ方ニ走り、追撃スル事ヲ得スト云フ。他ノ第四戦隊及第六戦隊ハ黒山島方面ニ追襲セシモ、敵ノ逃走何レニ航シタリ乎分カラスト云フ。千歳ハ白翔島沖ニ於テ命ヲ待タシム。八雲、高砂、笠置ハ第三地点ニ向フ。午后十一時、光緑島沖ニ錨ヲ入ル。仮泊ス。明朝五時、抜錨。第三地点ニ向フ筈。

戦場での指揮・命令は、時々刻々変化する状況を踏まえながらなされるのだから、状況を伝える情報が東郷にどのようなに伝えられ、且つその情報が彼の指揮・命令にどのような影響を与えたのかを考察する史料として『東郷元帥手記』並びに「東郷日記」は役に立つのではないか。それにして東郷の日記は、自らが得た情報を淡々と書き綴り、例えば部下が戦死したとしても自らの感情を吐露するようなところはない。

他方で東郷は、各戦闘情報が錯綜する中、寄せられた情報の真偽に迷う姿を伝える記述も書き残している。また文章が文法的に不自然、或いは文章全体を読むと整合性が取

れていない箇所が間々見られる。しかしこれはむしろ戦場という極限状態での緊張感溢れる記述の現れと理解したい。ここには戦場に立つ武人として東郷の真の姿が垣間見られる。こうした点から「東郷日記」や『東郷元帥手記』は、作られた「東郷像」から距離を置き、僅かではあるが「素顔の東郷」に近づくことを可能とする史料ではないか、と筆者は考えている。

ところで少し細かい話になるが、今回、原本の「東郷日記」と市来崎少将が複写した日記（誌）を比較してみると、誤植等があることが判明した。先行の立派な業績に対して軽々しい批判などでの外であるが、人の手を経るとどうしても右のようなことが起きる。今回、原本を何度も読み直し、そうした点を改めるようにつとめた。しかし他方で今回の翻刻により新たなミスが生じていないかとの不安もつもの。

さて最後ではあるが、今回、東郷神社の御許可をいただいで日記を翻刻させていただいたが、東郷神社の名誉宮司松橋暉男氏と財務部長・禰宜氷室千春氏には多大なる御理解と御協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表させていただきます。

注

- (1) 日露戦争時の戦艦三笠の戦時日誌及び戦闘詳報は、防衛省防衛研究所に所蔵されているが、それを翻刻したものとして吉村昭監修『戦艦三笠すべての動き』第一巻〜第四巻（エムティ出版、一九九五年）がある。本史料紹介に際して参考にさせていただいたが、特に「東郷日記」と戦時日誌等の比較から当時の東郷を取り巻く状況が一層深く理解することができた。
- (2) 平八郎長男彪は式部官、二男の實は海軍中佐。女八千代は海軍少将園田實に嫁ぐ。
- (3) 東郷の日記については本稿で紹介するもの以外に、宮永孝氏が東郷の英国留学時代の英文日記を「東郷平八郎の英文日記」（『社会志林』第四八巻第二号）と題して紹介されている。英文日記は東郷神社が所蔵し、一八七四年一月二〇日から同年二月三一日までのものと、一八七八年一月一日から同年九月ころまでで終わっているもの（この日記は、前者に比べると内容がかなり簡潔で、且つ断続的に書かれている）、の計二冊がある。なお宮永氏は右の論文を発表される以前に「イギリスにおける東郷平八郎」（『社会志林』第四六巻第三―四号）を発表され、在英中の東郷の足跡を丹念に調査して描かれている。また宮永氏は、「東郷平八郎の人と思想」（『社会志林』第五一卷第三号）を発表され、論稿の表題に関し素描を試みている。
- (4) ハワイ回航や高陞号事件などは国際法に通じていた東郷ならではの対処といわれる。なお彼は、明治六年から同七年にかけて在学したウースター商船学校で国際法を修得したといわれている。
- (5) 各氏の代表的な業績として田中宏巳「東郷平八郎」（一九九九年、筑摩書房）、同「秋山真之」（吉川弘文館、二〇〇四年）、野村實「日本海海戦の真実」、前掲宮永論文などがある。なお東郷に関する単行本の刊行状況については、田中氏の「東郷平八郎」に適切な解説があるので参照してほしい。
- (6) 東郷平八郎の伝記として最も評価の高いものは、小笠原長生編纂『東郷元帥詳伝』（春陽堂、一九二一年）といわれている。この「東郷元帥詳伝」の編纂過程については、田中宏巳「東郷元帥詳伝」成立をめぐって」（復刻版『聖将東郷全伝』別巻〈国書刊行会、一九八七年〉所収）が詳しい。
- (7) なお『聖将東郷全伝』第二巻で紹介されている日記の表記は、「日記」或いは「日誌」としたりして統一されていないが、本稿では同書に掲載されているものの表記も含めてすべて「日記」とし表記を統一した。
- (8) 『聖将東郷全伝』は、昭和一五年から同一六年にかけて小笠原長生著、聖将東郷全伝刊行会から刊行されたもの。解説では「東郷平八郎陣中日記」とも表記している。
- (9) 市来崎慶一は、海軍兵学校第三期・海軍大学校第一期（甲種学生）。日露戦争に従軍した経歴を有する。
- (11) この部分にもごく僅かではあるが日付を付した記述がある。なお北清事変時の東郷等の動向については、前掲『東郷元帥詳伝』第四篇第二章北清事変に詳しい。
- (12) 日露戦争時の東郷等の動向については、前掲『東郷元帥詳伝』第五篇明治三十七八年戦役時代上、第六篇明治三

(13)

十七八年戦役時代下に詳しい。

海軍が日露戦争時の海戦について編纂した戦史としては、公刊戦史として『明治三十七八年海戦史』（全四巻）があり、また秘密戦史として『明治三十七八年海戦史』（田中宏巳氏は全一四七巻、野村實氏は全一五〇巻とする。また野村氏は書名の最初に「極秘」の文字を付けている。）と『征露海戦史』（総巻数不詳）がある。

(14)

拙稿『東郷元帥手記 戦時懐中手帳』について（『東アジア近代史』第八号所収）。なお『東郷元帥手記』中の明治三十七年二月五日から八月一日までの分が「東郷大将陣中日記写」として戸高一成氏の手により紹介されている（新人物往来社編『東郷平八郎のすべて』新人物往来社、一九八六年）。

（宮内庁書陵部編修課首席研究官）

凡例

- (一) 漢字は、原則として常用漢字、或いは通行の字体を用いた。
- (二) 校訂注は「」内に、説明注は（）内に記した。そうした処理で対応できない場合は、該当箇所（注）と記し、また各日の記事の最終行に一字下げの上、（注）と記して補足説明をした。
- (三) 判読不能の文字は□（文字分）を用いて記した。
- (四) 正誤が判断しにくい文字、慣用的に用いていたものと思われるものは当該文字の右脇に（ママ）と記した。
- (五) 読みやすさを考慮して適宜句読点を付した。
- (六) 異体字・俗字などは本字に改め、合字等は片仮名に改めた。また助詞の「江」、「者」は「エ」、「ハ」、万葉仮名は片仮名に改めた。
- (七) 仮名はほとんど片仮名であるが、一部平仮名もある。その場合は平仮名のままとした。
- (八) 空白箇所は、（アキママ）と記した。
- (九) 各日の記事の上部欄に書かれた天候、曜日等については、適宜各日付の後に続いて書き記した。また上部欄外の用語については各日の記事の最終行に一字下げの上、○上部欄外と記した上、「」内に用語を記した。
- (一〇) 明らかな誤記などは訂正した。
- (一一) 一部、読みやすさを考慮して体裁を整えた。
- (一二) 日記が書き記す露国艦船名の表記には微妙に異なるところがある。そこで露国艦船名については小笠原長生編纂

『東郷元帥詳伝』（春陽堂、一九二一年）で用いられているものを該当箇所の脇の（ ）内に注記した。

（以下、日記本文）

明治三十七年二月五日午後四時、佐世保軍港ニ於テ電報ヲ以テ征露ノ御命令ヲ受領ス。速カニ出征行動ヲ取ル為メ作戰ヲ撰フ。午後六時、各司令官以上ヲ集合シ意見ヲ集メ参考トス。修夜軍議ヲ尽シ決定スル所アリ。翌六日午前六時、開散ス。

二月六日 天候晴ナリ

午前九時 第三戰隊及駆逐艦隊ヲ卒ヒ佐世保軍港ヲ出航セリ。午前十時、第二戰隊、正午、第一戰隊、午後二時、第四戰隊及水雷艇隊二隊各佐世保ヲ出航ス。水雷母艦之レニ附ス。明早朝、珍島南沖ニ至リ、駆逐隊炭水補求ノ上、シング島沿海ニ午後三時迄ニ全艦隊集合シ、然ル後予予定ノ行動ヲ取ルコト約ス。

二月七日 天候好天候 寒暖計57

午前七時、九針島ヲ過ク所ニ於テ魯国商舟ニ出会。龍田ヲ以テ抑留セシム。続テ台中丸ニ引渡シ捕獲ノ処分ヲ実行セシム。後チ佐世保軍港工護送シタリ。午前、珍島ニ於テ曙艦石炭積載ノ為母艦日光丸ト衝突ノ旨、千歲司令官ヨリ電信ヲ以テ報告アリ。又唯今曙ハ艦底損所ヨリ入水、前進ニ不堪、修理ヲ兩日ヲ要スル見込、工作舟ヲ送ルコトヲ命令アリタシ、諸物品ハ母艦ニ積入中ト電信アリ。

八口浦在泊ノ明石ヨリ異情ナシ唯今出航スト電信アリ。又電信

數通アル旨ヲ通知ス。午後、明石ヲシングル島近海ニ於テ電信ヲ受領セリ。又捕獲舟ロシヤ号処分ノ件ヲ大臣工電信ヲ以テ報告セリ。此電信ハ台中ヲ八口浦工至ラシム。午后三時ナリ。

午後四時三十分、シングル島近海ニ集合中、第二戰隊司令官ハ魯国商舟ヲ捕獲スル為、吾妻艦長工命令シ、八口浦沖ニ於テ抑留シ臨見セシニ、東清鐵道会社商舟（アラミム）（二千八百噸）ヲ千早ニ引渡シ、又八口浦ニ於テ台南丸艦長工引渡シ処分スルコトヲ命シタル旨、第二艦隊司令長官ヨリ報告アリ。○シングル島近海ニ於テ森中佐ヨリ領シタル電信ニ曰ク、一昨日旅順口港外ノ魯艦ハ去ル六日ノ如ク港外ニアリ、小隊縦陣ヲ以テ碇泊シ居レルコトヲ通知セリ。○同海ニ於テ仁川ヨリ報告ニ以前ノ如ク異情無シ。午后五時、八口浦沖ヲ前進シ瓜生司令官ノ卒ヒタル第四戰隊ト水雷艇隊ハ仁川ニ向フ。其ノ他ノ聯合艦隊ハ旅順口工向航ス。天候穩ナリ。

二月八日 晴 天候最モ好シ

午前八時三十分、小青島沖ニ至ル。旅順口ヲ指シテ進行ス。艦隊中異情無シ。午后六時、閑島沖ニ於テ駆逐艦ヲ放チ第一、二、三隊ヲ旅順口港外敵艦隊ヲ攻撃。第四、五隊ヲ大連灣ノ内ノ敵艦ヲ兩港共ニ攻撃ノ為進行ス。円島沖ニ於テ第一、二、三艦隊ト離ル時ニハ必撃沈成功ヲ信号シ、登舷礼式ヲ行ヒ軍樂ヲ奏シテ予定航路ニ進ム。于時日没ナリ。艦隊ハ明日午前九時旅順口外ニ進行ノ予定ナリ（駆逐艦隊十八隻ニシテ実ニ二勇マ數ク、未タ却テ見シコトナシ。信号ニ必ス成功ヲ望ト云ヒシニ第一駆逐隊司令ヨリ誓テ成功ヲナスト信号アリ）。誠ニ愉快ナリ。

二月九日 晴 風力二 実ニ穩ナリ

予定ノ如ク午前九時過キ、旅順口沖ニ至ル第三戦隊ヲ以テ港口近キヲ偵察セシム。午前十一時、千歳ヨリ敵艦港外ニアリ、昨夜ノ襲撃奏功シタル者ト認ム、蒸汽ヲ揚タル艦ハ僅カニ五隻以内ナラン、進撃ノ機会ナラン報信アリ。是レヨリ全艦隊ヲ以テ旅順港外ノ敵艦ヲ猛撃セヨノ命令ヲ成シ進撃ス。午前十一時二十五分、敵艦見ユルノ報告アリ。「バ、アヤン」一隻斥候ノ為メ港外ニ出テ来リ直ニ引返シ港口ニ向フ。正午殆ンド過キタル比、六千五百メートルニ近ツキ砲撃ヲ開始ス。則チ零時五分ヨリ三十分ニ終リ、是レヨリ第三集合点ニ引揚ク。駆逐隊ハ第四集合点ニ昨夜直ニ引揚ルコトニナリシ。

本日ノ戦闘情況ハ笠置ヲ八口浦工至ラシメ、旅順口港外之戦情ヲ海軍大臣工報告セシム。

敵艦隊運動スル者十二隻アリ。内四隻ハ一等巡洋艦以上ノ艦アリ。港外ニ於テ単縦陣ヲ以テ運動ヲ成シ砲撃シ對抗シ、他ノ三等巡洋艦ハ港内ニ退ケル者ノ如シ。一等巡洋艦バアルラダ同形以上ノ者三隻ハ蒸汽ヲ不用座礁ノ如キヲ認ム。

二月十日 荒天 風力六、七ナリ

午前八時、仁川沖ノ諸島ヲ見ル。進航ス。第三艦隊ノ内、吉野ヲ不見。暫時シニシテ豊島沖ノ方アリ。午前十時、浪速瓜生司令官ヨリ伝信ニ、仁川在泊ノ敵艦委ク撃沈セリ味方ハ損害ナシト報告アリ。午后一時、牙山沖ヘ投錨、第四戦隊ニ合ス。昨日ノ戦情報告スルニ天候荒悪ノ為仁川迄通信艦ヲ遣スルコトヲ得ス。午後五時、千代田ヲ護衛ノ為仁川工行カシム。単ニ当港着ノ通信文ケ海軍大臣工通告セシム。

二月十一日 晴 昨夜追々風力減シ、今朝ニ至ツテ穏カナリ。

本日負傷者ヲ佐世保ニ送ル。午後五時、牙山沖ヲ出港シ八口浦工向フ。第一艦隊ト第一、二、三駆逐隊ナリ。第二、三艦隊ハ旅順方面ニ偵察ノ為第四、五駆逐隊ヲ卒ヒテ明日出港スルヲ決定ス。午後三時、各駆逐隊司令ヨリ旅順工港外ノ敵艦進撃ノ情況ヲ聞ク。五隻以上撃沈セシメタル見込ナリ。ポペーダ、レツトウキサン、ツエサレウイチ、アームル、バヤーンノ五隻ト認ム。仁川ニ於テワリヤーク、コレーツ沈没。合シテ七隻ナリ。本日迄ニ聯合艦隊ハ商舟三隻ヲ捕獲セリ。午後二時、笠置牙山湾工着ク。八口浦ヨリノ電信ヲ齎ラス。

本日貴官ニ左ノ勅語ヲ賜フ。大本營ニテ海軍々令部長。

聯合艦隊ハ陸兵韓国上陸ノ任務ヲ全クシテ、其ノ西岸ヲ掃ヒ、敵艦ヲ旅順ニ撃チテ其ノ數隻ヲ破リ氣勢大ニ奮フト聞ク。朕甚タ之ヲ嘉ミス。將士益々奮励セヨ。

明治三十七年二月十二日

又本日貴官ニ皇后大夫ヨリ左ノ通思召ヲ伝ヘラル。海軍々令部長。

我聯合艦隊ハ仁川及旅順ニ於テ大ニ敵艦ヲ撃破シタル趣、皇后陛下ノ綏問ニ達シ深ク感賞在ラセラル。

明治三十七年二月十三日

（此ノ記入前日ニ在リ。十二日及十三日ト記置クス可シ）

御勅語ニ奉答

聯合艦隊カ初度ノ作戰ニ勝利ヲ獲タルハ大元帥陛下ノ御威徳ノ依レルモノニテ、之レニ対シ優渥ナル勅語ヲ賜ハリ、臣等感激

二槩へス。臣等尚益々奮勵殘敵ヲ海上ニ掃蕩シ以テ 聖旨ニ添
ハンコトヲ期ス。臣東郷平八郎謹テ奏ス。

明治三十七年二月十二日

皇后陛下ニ奉答

聯合艦隊初度ノ戦勝ニ対シ、優渥ナル嘉詞ヲ賜ハリ臣等感激ニ
堪へス。今後尚益々奮勵シテ有終ノ全勝ヲ収メンコトヲ期ス。願
クハ宸襟ヲ安ンジ賜ハランコトヲ。臣東郷平八郎謹テ奏ス。
明治三十七年二月十三日

十一日午後五時、牙山沖ヲ出航。第一艦隊ト笠置及駆逐艦隊第
一、二、三隊ヲ卒ヒ八口浦ニ向フ。午后四時三十分、第三艦隊
ト第四、五駆逐隊ハ旅順口方面ニ進行偵察ス。任務ヲ取ル為メ
牙山沖ヲ出航ス。第二艦隊ハ明日午前八時、牙山沖ヲ出艦。山
東角附近ヲ経テ黄海ヲ偵察スル筈ナリ。

二月十二日 晴 天候良好

午前十一時三十分、大黒島南方ヲ通過シ、午后四時三十分、八
口浦工投錨ス。直ニ各艦ヘ石炭積載ヲ命ス。

二月十三日 晴 天候好シ

午前二森中佐よりノ報知ニ去ル十一日旅順口ヲ出発シタル英商
舟々長ノ咄ニ依レハ魯國艦隊ハツェザレウチ一、シバステボル
型一、外ニアスコリツト、他ニ一港外ニアルクト聞ク。其他ハ
行衛不明ナリト通信アリ。其の意ヲ解セス。我の案スル所ハ敵
ハ全艦隊港内ニ退入セシ事ヲ想像ヲ附、猶ヲ慥メル為第二、三
戦隊と第四、五駆逐隊ヲ偵察ニ進行セシメタリ。

二月十四日 荒天 第二回

各艦石炭ヲ積ムヲ困難ナリ。午后止ム。午前十時第二艦隊ハ大
黒島南方ニ在ル。天候ノ為メ帰港スルコトニ決シ、第三艦隊ハ
大青島ニ吉野哨艦セリ。千歳、高砂及第五駆逐隊三艘ハ順成島
ニ在リ。第四駆逐隊ハ牙山ニアルコトヲ信号ス。第二艦隊ハ午
后四時、八口浦工投錨。直ニ石炭積載ノ順序ヲ定ム
(此ノ日ニ第五駆逐隊ハ他ノ艦隊ハ旅順ヘ進行ト心得、直ニ旅順
攻撃セルト云フ)。

二月十五日 晴 好天気ナル

午前八時、笠置ヲ第三艦隊工通信ス可シト命シ出港セシム。予
期之通り実行セラレサレハ八口浦工帰港ス可シ。又天候ノ許ス
ナレハ第三艦隊ト浅間ヲ属シ、メ、旅順口ヲ偵察スルコトヲ命
ス。第五駆逐隊ハ牙山ニ至リ瓜生司令官ノ指揮ヲ受クルコトニ
命ス。午前十時、龍田ヲナサン島附近工笠置ト連絡シ哨艦ニ命
ス。

陸軍偷送仁川へ至ル途中、安危ノ情報ヲ通信スルコトヲ命ス。
笠置ハ第三艦隊ノ哨艦ベイカー島附近ニ有ル者ト連絡シ信通ス
ルコトヲ命ス。正午、浅間ハ第三艦隊ニ属スル為出港。午后、台
南丸外ニ三隻石炭水ヲ積ミタル舟八口浦工投錨ス。

二月十六日 晴天

龍田ヨリ電信アリ。午前八時、第三艦隊大黒島附近ヨリ通信セ
リ。八口浦工回航ノ途中ナリ。午前十時、第三艦隊八口浦投錨
ス。第三艦隊ハ天候悪シキ為旅順口偵察ヲ止メ回航シタリ。第
四駆逐隊ノ内速鳥、朝霧ハ天候ノ為牙山工一時帰陸ノ後チ再ヒ

出港シ、第三戦隊二命スルコトヲ得サルニ付最早進行ト推察シ、右二艦ハ天候ヲ冒シ、旅順口エ進行シ港口ノ敵艦ヘ攻撃ヲ加ヘ退却セルト云フ。速鳥ハ敵ノ一艦ヲ撃沈スト云フ。直二本営ニ此ノ情報ヲ報告ス。

二月十七日 曇天 天候悪天 風力六、七

午前八時、在哨艦笠置ヨリ陸軍ノ端舟二十隻難舟シ救助シツ、有リ。報告ス。其艦ハ救助人ヲ列レ帰港ス可シト命ス。

午前十時、在ナンサン島附近龍田ヨリ電信器ニ故障ヲ生シタル報告アリ。故に交代艦ヲ差出スコトニス。午前十時、山城丸出港。佐世保軍港ニ向フ。午後七時三十分、笠置艦長来訪、救助之事ヲ報告セリ。則チ助ケタル者ハ五十七名ナリ。陸軍運送舟ハ宇和島丸ト云フ。今夜迄ハ笠置ニ置キテ、明日運送舟エ移スコトニ斗フヘシ。

二月十八日 晴天好シ

午前九時、千早出港。ナンサン島附近ニ於テ斥候セシムル為ナリ。午前二時高砂出港。於青島附近ニ於テ斥候シ、ペイカ島及牙山ト連絡ヲ通スル為メナリ。午前十時ヨリ八口浦玉島布設部ヲ巡視ス。及電信局ヲ視ル。終テ帰艦ス。午前零時三十分、木浦領事若松兎三郎来訪。午後退艦セリ。午後、軍令部ヨリ十四日朝、速鳥攻撃ノ敵艦ハバヤリント米國駐在竹下少佐ヨリ電信シアリト伝ヘラル。午後、旅順口港ヲ閉塞スル為メ閉塞隊ヲ定ム。都合七十七人ナリ。之レヲ有馬中佐ヲ以テ卒ニシテ、上村中将モ会同ス。

二月十九日 曇 風靜ナリ

午前八時、千早ヨリ異情ナシノ電信アリ。午前、牙山灣在泊ノ水雷艦隊ヲ八口浦ヘ集ムルコトヲ命ス。明廿日午前八時ヨリ第三行動ヲ取ルコトヲ決ス。此ノ行動ハ旅順口港ヲ閉塞シ第一、二艦隊ハ彼レノ造船所及内部艦隊ヲ砲撃スルコトニ勤ム可シ。

閉塞隊指揮官ハ有馬中佐、広瀬少佐、齊藤大尉、島崎中尉、正木大尉ノ五名ナリ。天津丸ヲ有馬、報国丸ヲ広瀬、武州丸ヲ正木、仁川丸ヲ齊藤、武揚丸ヲ島崎ナリ。下士以下ハ各艦ヨリ撰拔ス。機関官ハ初瀬ヨリ山賀大機関士、敷島ヨリ栗田、常磐ヨリ杉中機関士、霧ヨリ南沢大機関士ナリ。

天津丸山賀大機関士、上信上等兵曹外拾四名、報国丸二栗田大機関士、大沼一等兵曹外二拾三名、仁川丸二南沢大機関士、山田一等兵曹外二十三名、武州丸大谷中機関士、中川一等兵曹外二十二名、武揚丸杉中機関士、米良一等兵曹外十一名ナリ。

二月廿日 雨 午後曇天及濃霧

午前九時、第三戦隊統テ特別運送舟五艘八口浦ヲ出港ス。統テ正午、第一戦隊出港ス。午後一時、第二戦隊出港ノ筈。午后三時ヨリ七発島付近ヨリ濃霧アリ。午後過キニ至リ霧晴レルトモ悪天ノ模様アリ雨晴計五度余下ル。

二月廿一日 天晴レルトモ浪毛高シ。第一艦隊異情無シ。

午後二時三十分、荒申沖ニ投錨。風強ニシテ午後八時出艦ノ筈ニ有之候処見合ス。午後、第二艦隊之外各集合ス。午後六時、第二艦隊荒申沖ニ投錨ス。午後五時四十分、大本営軍令部長ヘ風止ム次第行動ヲ取ル事ヲ瓜生司令官ヲ經テ電信ヲ以テ伝ヘシム。

二月廿二日 天晴レル

午前九時三十分比迄雪降ル。寒氣甚シ。二十六度ニ下ル。午前十一時三十分、小青島之方工黒煙見ユルノ報アリ。龍田ヲ以テ偵察ニ出ス。我陸軍運送舟三隻海州工回航セル報告アリ。午後四時、第三戰隊ト第五駆逐隊出港。午后五時、特別運送舟ト水雷艇出港。第一戰隊ハ午後七時出港。第二戰隊ハ続テ出港。右各艦ハ旅順口港閉塞ノ目的ヲ以テ荒申沖ヲ発シテ進行ス。午後、浪速ヨリ電信ヲ以テ魯兵二十一日ニ安別工騎兵數十名進来ノ旨通信アリ。午后、金別丸工特別運送舟各人艇ヲ乗組セ荒申沖ヨリ全時ニ佐世保工回航セシム。

二月廿三日 晴 天候良好

午前八時、大東江沖ニ在リ。昨夜異情無シ。午後五時三十分、円島附近ニ至リ集合ノ予定。午後八時、千歳ヨリ伝信ニ曰ク、第三戰隊ハ第一戰隊ノ前方三十哩余ノ所ニアリ。特別運送舟ハ前方ニ進行スルコトヲ通信ス。依テ特別運送舟隊ニ予定ノ如ク進行セヨト通セよト命令ス。

午後五時、円島南方凡十哩ノ沖ニ達シ、駆逐隊第一、五、水雷艇第九、十二及特別運送舟隊ヲ進行セシム。第一、三戰隊ハ予定ノ如ク運動ス。第二戰隊及第四驅隊ト予定ノ如ク行動ス。閉塞隊ト別カレルトキ登舷礼式ヲ行フ。天候至ツテ静穏ナリ。悉ク奮テ進行セリ。明朝午前八時過、岩島ニ於テ集合ノ筈ナリ。

二月廿四日 晴 天候良好

○第一回ノ閉塞
午前八時過、岩附近ニ至リシニ一ノ艇ヲ不見。僅カニ三十分ヲ待ツニ第一驅逐隊集合セリ。報告ニ旅順口ノ情況確カナラサルモ火線二本ノ掲ルヲ見ル。多分成功ト見ルト云フ。暫時ニシテ

惣艇隊集合シ報国丸、天津丸、武揚丸ノ人員ハ鶴、隼ヲ以テ受与シ来リ。他ハ不明ト云フ。哀なる哉。敵の捕虜トナラン。又ハ戦死なる哉。不明なり。干時正午ニ近キヲ以テ、是レヨリ造舟所及港内砲撃ハ後レタル以テ明朝砲撃スルコトニ定ム。艦隊ヲ山東角沖ニ向航ス。水雷二隊ハ第四集合点ニ送ル。駆逐艦隊ハ今夜旅順港外ニアル敵艦隊ヲ攻撃ノ為、第四駆逐隊ヲ旅順口、第一驅逐隊ヲ鳩灣、第五驅逐隊ヲ大連灣ニ突撃ノ命令ヲ出ス。第一、二、三戰隊ハ山東角方面ニ避ケ、明早朝、円島附近ニ集合シ行動ヲ取ル予定ナリ。

二月廿五日 晴 天候好 ○第三回旅順攻撃（鮮生角方面ヲ打）

午前七時、円島西方工至ル。昨夜第一、四、五驅逐艦隊ノ情況ヲ聞クニ、指示ノ方面ニ敵無シ。聯合艦隊第一、二、戰隊ハ旅順港口工進行シタルニ、此ノ方面ニ機械水雷ヲ発見ス。故ニ予定進行ヲ變シ老鉄山沖方面ニ行進ヲ取ル。再ヒ十六点ニ變シ港口ノ中央ニ至ル。予定進行ヲ取ル「アスコリット」「バヤン」「ルウキツク」三隻港外ニ運動シツ、アル以テ、彼レニ向ヒ八千メートルノ距離ヲ以テ砲撃ヲ始ム。第一回ヲ鮮生角砲台下、東方ニ位廻リテ砲撃シタルニ、彼ノ三隻ハ港内ニ退却ス。大ナル損害ヲ能フ。「アスコリット」、「バヤン」ニ彈着ノ爆発ヲ見ル。彼レノ砲台ヨリ砲撃ハ烈ク、艦側ニ達スルモノノ損害ナシ。又敵ノ機械水雷ヲ発見シタル為、港口ニ近接スルヲ止ム。第三戰隊ハ老鉄山沖ニ敵ノ駆逐艦二隻出沒シタルヲ以テ、遂撃シ一隻ハ旅順口内逃走シ、一隻ハ鳩灣工追撃シ竟ニ鳩灣内ニ乗揚ケタル撃破シタルノ報告ヲ出羽司令官ヨリ得ル。千早、龍田ヲ以テ廟列島近海ヲ昨夜進行シタル閉塞隊仁川丸、武揚丸ノ人員ヲ索探ノ為メ進航セシメタルモ見當ラズト報告アリ。

二月廿六日 晴

午前十時三十分、巡威島工投錨。第三戰隊ヲ午前九時、同所工投錨ス。午後一時、各艦長、驅逐艦司令、艦隊司令ヲ集メ広瀬少佐ヲ呼ヒ旅順口閉塞実況ヲ聞ク。去ル廿五日ヨリ廿六日ノ行動ノ実況ナリ。并有馬中佐ノ特別閉塞隊進行順序、舟員退却、水雷艇受与ノ有様等ノ情況ヲ聞ク。

午後六時、巡威島沖工投錨シ八口浦ニ向フ。第三戰隊千歳、吉野ヲ出羽司令官之レヲ卒ヒ、第一戰隊ヨリ富士、八島ヲ加ユ。及第五驅逐隊ヲ附ス。海洋島処分ヲ命ス。午后五時、巡威島沖ヲ出発ス。其他水雷艇、母艦春日丸、病院舟神戶丸、驅逐艦、水雷艇ヲ八口浦工回航セシム。今日第一驅逐隊ヲ瓜生少将ノ下ニ屬シセシム。

二月廿七日 晴

午前八時、仁川灣沖ヲ通過ス。午前十一時、八口浦碇泊。八雲ヨリ伝信ニ閉塞隊人員ノ内、齊藤大尉外ニ全員芝罘工到着セシコトヲ報告アリ。此ノ人員ノ万難避ケ生存セルコトヲ喜フコト限り無シ。午后四時三十分、八口浦工第一艦隊着ス。午後六時、第二戰隊ノ警手、常警ヲして齊藤大尉外閉塞員ヲ収与ノ為、芝罘沖ニ遺巡セシム。井上大佐香港丸ヲ附屬セシム。

二月廿八日 晴

昨日ヨリ風邪氣ニシテ室内ニ入ル。鈴木軍医官ヲシテ珍断ヲ受ケ療治ヲ加フ。熱度三十八度三部アリ。セキノ為苦シム。

二月廿九日

八口浦在泊。第二戰隊（浅間ヲ除キ）五隻ト第三隊ノ内、吉野、高砂ヲ加ヘ浦塩斯德方面工偵察ノ為派遣セシムルコトニ決ス。

三月一日

八口浦在泊。

三月二日 曇

午前、第四戰隊工海州邑沖ニ前進根拠地ヲ設ルコトヲ命ス。仁川ニ大島、赤城ヲ殘シ前進セシム。来ル五日、第一艦隊ト同日ニ前進ノ筈ノ処、荒天ニ付進行ヲ見合ス。

三月三日 曇

午后、第七戰隊八口浦工入港。細谷中将卒ユ。直ニ來訪。大同江前進根拠地ヲ進行スルコトヲ命ス。

三月四日 曇

午后五時、日本丸帰港。別ニ異情無シ。

三月五日 風雨

午前八時、旅順港第四攻撃ノ為第一、三、四戰隊ヲ出港ノ予定ニアリシモ、天候ノ為出港ヲ見合ス。日本丸艦長工函館方面ニ廻航敵ノ運送舟捕獲ノ為派遣ヲ命ス。

三月六日

本日ハ荒天甚敷故、出港ヲ見合ス。

三月七日 晴

午前九時、八口浦ヲ出艦。旅順港砲撃ノ為メ進行。明日ハ海州
邑沖ニ集合シテ明後日旅順口ヘ進行ノ予定。第一、三戦隊二隻
ト浅間ヲ加ヘ第四戦隊ヲ海州邑ニテ合シテ旅順攻撃ニ決ス。駆
逐隊ハ第一ト三隊ヲ卒ユ。

三月八日 晴

午前九時、大青島南方沖ニ至ル。東方ニ航シ海州邑沖ニ向フ。天
候至テ静穏ナリ。午前十時、荒申沖ニ投錨。第三戦隊其他ノ艦
隊モ投錨ス。午前十一時三十分、瓜生司令官來訪。第四戦隊ノ
情況ヲ聞ク。午後各艦長ヲ集合シ行動交^電ノ事ヲ令ス。

三月九日 晴

午前六時、荒申沖ヲ出艦。旅順攻撃ニ行動ヲ始ム。第一戦隊、第
三戦隊ト浅間、第四戦隊浪速、高千穂、新高、対馬ト駆逐隊第
一、三隊ヲ加ヘ進行ス。午後五時、円島南方ニ於テ駆逐隊ト千
早、龍田ヲ附ケテ旅順方面ニ襲撃ノ為進行セシム。本隊ハ予定
航路ヲ取ル。明早朝八時、老鉄山南方ニ集合ノ筈。

○第四回旅順攻撃

三月十日 少シ霧アリ。

午前八時、老鉄山南方拾里余ニ至リ第一駆逐隊ト合ス。昨夜四
時、老鉄山下南方ニ於テ敵駆逐艦六隻ト交戦シ、戦死者八名ヲ
出シ負傷者八名ヲ生シ、敵ノ駆逐艦一隻ヲ最大損害ヲ与ヘ辛シ
テ退却セリト第一駆逐隊ヨリ報告アリ。負傷者直ニ三笠、朝日
ニ收容ス。又第三戦隊千歳ヨリ報告ニ拠レハ、第三駆逐艦隊ハ
敵ノ駆逐艦隊ト交戦シ敵艦一隻ヲ捕獲中ト報知アリ。午前十時
ヨリ第一戦隊ノ第二小队初瀬、敷島、八島ヲ老鉄山方面ヨリ旅

順口内ヲ砲撃セシム。第三戦隊ヲ以テ着弾ノ監視ヲナスニ、伝
信以テ着弾造船所ニ適中、最モ良好ト認ムト云フ。彼レハ黄金
山ヨリ砲撃ヲナスト雖モ我レニ一ノ損害無シ。午後〇時三十分
ヨリ第一戦隊第一小队ヲ以テ同所ヨリ砲撃ヲ始ム。常磐ヨリ電
信ニ彈着良ク適中スト云フ。午後二時二打方ヲ止メ、円島沖ニ
各艦隊集合ス。盡々異情無シ。第四点ニ向キ引揚ク。本日ノ旅
順口内砲撃ハ多大ナル彼レニ損害ヲ能ヘシコトヲ信ス。港内停
車場附近ニ二ヶ所ノ火災発セシコト、又老虎尾裏面ニ一ヶ所火
災発ス。又造船所附近ニ二ヶ所火災起ルヲ第三戦隊ヨリ認ムル
ト云フ。

○上部欄外「第四回攻撃」

三月十一日 晴

午前八時、大青島エ双フ北東ニ向フ。荒申沖ニ至リ、午前十
時三十分、荒申沖ニ投錨ス。軍令部長ヨリ電信ニ曰ク、仏国駐
在ノ陸軍將校ヨリ敵ノ艦隊ガ攻勢取ルコトノ情報ガ魯国工通信
アリシコトヲ申来リ。然ト雖モ昨日之攻撃ノ形勢ニ彼〇レカ近
々内ニ攻撃ヲ取ルコトハ免テモ成シ難キコトト考フ。午後一時
ヨリ各艦長ヲ集合シ戦況ヲ聞ク。又訓示ヲナスコトアリ。午後、
病院舟ヲ佐世保工送ル。

三月十二日 晴

午前九時、第三戦隊海州邑沖ニ入ル。一昨日ノ旅順攻撃ノ報告ヲ
龍田ヲ以テ仁川エ至ラシム。大本營工電報スルコトヲ令ス。午
後五時ヨリ第三戦隊ト第二駆逐隊ヲ海洋島附近ニ偵察ノ為行動
セシム。午後三時、海州邑錨地ニ第一戦隊投錨。午后四時三十
分、第四戦隊入港。明日、日光丸ヲ佐世保工差出スコトニ定ム。

此ノ舟ヨリ英国公使館附海軍大佐チユリユブリヂ氏便乗スルコトニ取計フ。

英国新聞記者海軍少佐^(フキヤ)氏ナル者、海軍省ノ許可ヲ得テ艦隊工視察ノ為乗組度事ニ付、一時同人及戸波中佐二人仁川在泊ノ水雷艇ニテ此ノ港工来港ス可キ様、在仁川大島艦長工指示ス。

三月十三日 晴

午前、チユルーパーリツヂ氏、日光丸ヨリ帰京ニ付来訪^(来訪)。横浜ニテ英国艦隊司令長官交代ニテ帰国ニ付アトミラルブリツヂ氏エ会合ノ為メナリ。

日光丸ヨリ捕虜四名、佐世保工送ル。旅順沖ニ於テ擊沈シタル駆逐艦ノ乗員ナリ。午后英国人タイムス新聞記者一人、外波海軍大佐同道ニテ来艦。同人ノ希望ヲ暫時此ノ際許シ難キ旨ヲ外波中佐ヲ以テ答フ。又許可スヘキ時機宜敷節ヲ此方ヨリ通告ス可シ申述置ク。

三月十四日 晴

御勅語ヲ賜フ

聯合艦隊ハ旅順口ノ敵ヲ威嚇シ殊ニ第一驅逐隊、第三驅逐隊ハ危險ヲ冒シ敵ノ要塞砲火ノ下ニ優勢ナル駆逐隊ト戦ヒ奇功ヲ奏セリ。朕深ク將校下士卒ノ武勇ヲ感賞ス。

三月十三日

奉答

去ル三月十四日旅順口ノ攻撃ニ対シ、優渥ナル御勅語ヲ賜リ臣等感激ニ耐ヘス。今ヤ黄海ノ寒氣大ニ減シ、我作戦ニ利スル処多シ。臣等愈々奮勵シ有終ノ戦果ヲ収メンコトヲ期ス。

右謹テ奏ス。

三月十四日 聯合艦隊司令長官

皇太子殿下ヨリ本日左ノ令旨ヲ賜フ

第四回旅順港攻撃ノ捷報ニ接シ、聯合艦隊ノ奏功特ニ驅逐隊將卒ノ壯烈ナル行動ヲ欣賞ス。

午后一時、各艦長ヲ集合。御勅語ヲ拝読セシム。之レヲ部下一同ヘ伝達ス可シ。

午後六時、敵艦旅順口ヲ脱出ノ恐れアリ。偵察要スル旨軍令部長ヨリ電信ニ接シ、依テ出羽司令官第三艦隊ヲ卒ヒ旅順口内ヲ偵察スルヲ命ス。第二艦隊ハ明日、第二集合点ニ進行ノ旨報告アリ。

三月十五日 晴

午前九時、第三戰隊出港。旅順口偵察ノ為ナリ。千歳、高砂、常磐ノ三艦ナリ。千早、龍田ヲ伝詰ノ海州邑間ニ派遣シテ第三戰隊ト連続セシム。午后、笠置、吉野入港。艦長来艦。浦塩方面ヲ第二戰隊ト攻撃ノ情況ヲ聞ク。午后、大島入港。艦長来艦。仁川方面ノ情況ヲ聞ク。

○上部欄外「海州邑」

三月十六日 晴

午前、第二艦隊ヨリ本日午前ニ海州邑ニ入港ノ旨通知アリ。午前十一時三十分、第二艦隊海州邑投錨。午后、上村司令官来訪。浦塩斯德砲撃ノ情況ヲ聞ク。午前、第三戰隊旅順偵察ヨリ帰隊シ、出羽司令官来艦。敵情ヲ聞ク。敵ノ主戰隊ハ港内ニ在泊スル如ク思考ス報告アリ。四艘ハ在形ヲ見ル。其ノ他煤煙ノ

揚ル所ヲ見ルニ在港ハ疑ヒナシト云フ。

三月十七日 晴

本日、伊藤大使韓国工着港ノ筈。大島艦長ヨリ報告アリ。昨日、軍令部長ヨリ敵ノ主戦艦隊元山沖ニ見得タルコト通知有リシモ慥カナラス。出羽司令官ノ報告ト異ナルヲ以テ信セス。

三月十八日 曇 雪天

近日旅順口攻撃ノコトヲ決ス。仁川在泊ノ水雷艇隊ヲ呼ブ。本日、鎮南浦工第一軍司令部ヲ置ク。及近衛師団司令部ヲ到着之筈。吉田少佐ヨリ報知アリ。平壤方面ハ別ニ異情無シト報知アリ。昨日、伊藤大佐仁川ニ着ノ上、直ニ京城ニ出發サルコトヲ大島艦長ヨリ報告アリ。

三月十九日 曇 降雪

第五回旅順攻撃ノ方法ヲ講スルニ、敵ノ布設水雷ヲ破壊スルノ困難ヲ察スルニアリ。其方法ヲ研究シツ、アリ。依テ攻撃之時日ヲ決定セス。本日曇ニシテ降雪甚シ。寒氣ヲ覚ユ。

三月廿日 晴 寒氣強シ

午前十時、各司令官以上ヲ集合シ、第五回旅順口攻撃ノ行動、其方法ノ良策ヲ取ランガ為メ、各各位ノ意見ヲ集メ攻撃ヲ決定ス。明後日午前、老鉄山灯台ノ方面ヨリ襲撃ノコトニ決ス。旅順口閉塞艦隊ハ明後日砲撃ノ後チ、第四集合点ニ引揚ケノ上、再ヒ進行スルコトニ決ス。午后五時、第二集合点工第一、二、三戦隊錨地ヲ変ス。明日、出艦ノ便ナルカ為メナリ。午前、名和大

佐人事局ヨリ來艦アリ。

三月廿一日 曇 寒氣甚シ

午前五時、第二集合点ヲ出艦ス。旅順口ニ進行ス。第一、二、三戦隊ト駆逐隊第二、四隊ヲ卒ユ。午后七時、円島沖ニ於テ駆逐艦隊ヲ旅順口方面ニ行進セシム。第一、二、三戦隊ハ予定航路ヲ進ム。

三月廿二日 晴 (第五回旅順攻撃)

午前四時三十分、芝罘沖ヲ老鉄山ニ向ヒ進行ス。長山列島ノ灯台ヲ見ル。其他二三個ノ灯火ヲ見ル。清舟ト思フ。敵ノ駆逐艦ニモ疑ヒアリ。氣付ケ音ヲ鳴ス。総員戦闘配置ニ着ク。午前八時、千歳ヨリ敵艦「バアヤン」出港スト信号アリ。追々老鉄山灯台沖ニ富士、八島ヲ以テ港内砲撃ニ進行セシム。午前十時ヨリ港内射撃ヲ始ム。午後零時三十分、射撃ヲ止ム。旅順口沖ヲ通過シテ沖ニ至ル。敵ハ午前十一時比ヨリ「バアヤン」、「ノルビク」、「アルコリット」、「バルラメ級一戦艦「ベレスウキエット」、「ホルター」、「シバステボル」、「ベトロポロウスケ」、「ポヒエダ」、「ホルター」ヲ、砲台ノ射線外ニ出デス。此ノ時午后二時三十分ヲ過クル以テ退却スルコトニ決ス。午后五時、円島沖ヲ過クルトキ敵ノ機械水雷ヲ発見セリ。龍田ヲ以テ之ヲ撃沈スルコトヲ命ス。

三月廿三日 曇 荒天 南風

午前十一時、大青島北方工第一、二、三戦隊及駆逐艦隊投錨ス。明日ヨリ旅順口閉塞行動ヲ起スコトヲ決定ス。午后一時、各艦長及艇隊司令以上ヲ集合シ閉塞隊行動ヲ明午後六時より当海ヲ

出発進行、動作ノ期約ヲ定ム。終リテ各艦長以上会シテ、閉塞隊員ノ成功ヲ祈リテ盃ヲ揚ケテ閉塞隊員祝ス。

上部欄外「今朝、八雲ノ水モ投水ヲ聞ク。」

三月廿四日 曇 荒天 雨降

午前六時ニ至ルモ天候悪天ニ付、出艦ヲ中止。大ニ波濤高ク水雷艇ノ進行ニ免テモ堪ヘス。コトヲ憂フテ中止ス。午後少シク天晴ルト雖モ、波濤高キ静穩期シ難キニ付、荒申沖ニ錨地ヲ変ス。夜ニ入り天晴ルヲ覚ユ。明日午前三時、出発ノ予定ナリ。干時昨夜ノ高濤ニ閉塞舟ノ端舟ヲ検シ、他ノ舟ト交換スル為メ明後日ニ出発ヲ延バス。

午后、貴族院議員工答詞ヲ送ル。

三月廿五日 曇 午前九時濃霧アリ

荒申沖ニ在泊。午后五時、閉塞隊ト水雷艇隊出発。旅順口ヘ進行。第一、三戦隊ハ明日午前三時、荒申沖ヲ発シ途中ニ於テ追付、閉塞隊ト共ニ進行スル策ナリ。第二軍廿五日迄二下ノ関出スルコトノ報知アリ。

三月廿六日 晴 天候良好

午前三時、荒申沖ヲ投錨。第一、三戦隊ト常磐、浅間ヲ加エ第一、二、三駆逐隊ヲ卒ユ。午後七時、田島南方ニ於テ第一、三戦隊ハ予定航路ヲ取り、閉塞隊及水雷艇隊旅順口エ進行ス。

閉塞

三月二十七日 曇 少シク雪降 日曜(第二回閉塞)
午前三時ヨリ旅順口方面ニ砲火。頻リニ盛ナリ。閉塞隊進入ノ

時ナラン。午前六時五十分ニ至ル迄砲台ヨリ射撃ス。午前八時三十分、駆逐隊ノ一艦旅順口方面ヨリ帰り来ル。福井丸人員ヲ収メセリ。閉塞隊ハ四隻皆港口ニ進入。自ラ爆発セリ。戦死者広瀬少佐、杉野上等兵曹、小池兵曹外九名。合計死傷者計十三名、内死者四名。其他ニ不明ナル者アリ。

三月二十八日 晴

午前十一時、海州邑エ投錨。午后一時、各艦長及各司令官ヲ集メ戦情ヲ聞ク。午後四時、開散。午后、第二戦隊ノ内ニ隻斥候ノ為メ山東角沖ニ進行セシメ、二日間見張ノ予定ナリ。午后、大島、高雄入港。同艦長来訪。大島艦長エ広瀬少佐戦死ノコトヲ告知ス。午前、昨日ノ戦事報告ヲ呈出ス。

三月廿九日 晴

午后、広瀬少佐、杉野上等兵曹ノ名譽進級及功三級旭日章勲四等ニ、杉野ハ功五級旭日章勲六等ニ叙セラレ。

本日貴官ニ左ノ勅語ヲ賜ハル。

再度旅順港口ヲ閉塞セントシタル壯挙ヲ聞ク。朕益々其事ニ与ツカリシ將校下士卒ノ忠烈ヲ嘉ミス

大本營ニ於テ

三月二十九日 海軍々令部長

午後、軍令部長エ第三回閉塞ノ為メ商舟拾二隻ヲ請求ス。此ノ後ノ敵艦攻撃ノ法ヲ講究ス。機械水雷ヲ沈置スルコトヲ最モ上策ト講シツ、アリ。午后、台中丸艦長、前進敷設隊司令求艦、大同江根拠地ノ布設水雷皆済ノコトヲ報告アリ。午后、大山參謀部長ヨリ祝詞ヲ受ク。直ニ答詞ヲ出ス。海軍大臣及伊東軍令部々長工同ク答詞ヲ送ル。

三月三十日 曇 午前少シク雨降 正午ヨリ晴

午前、和田氣象台技師來訪。之レヨリ仁川へ行航致度、便舟アラハ幸ヒナリト申請アリ。明日、大島艦回航ニ付便乗可然コトヲ許ス。午後、名和大佐海州邑錨地ヲ出立。帰途ニ着ノ午后、広瀬中佐ノ死体ヲ本艦ヨリ送り出ス。名和大佐ニ依拵ス。午後、三宮義胤君へ答詞ヲ出ス。午後、浪速入港。異情無キヲ報ス。大青島附近哨艦ヨリ帰ル。

三月卅一日 晴

午前八時、第二戦隊ノ内、磐^氷、吾妻入港。山東角沖工哨艦ニ在リ。交代ハ浅間、常磐至ル。交々二隻ツ、続テ交互出艦ヲ命シタリ。

皇太子殿下ヨリ左之令旨ヲ賜フ。

旅順港口閉塞ノ再拵ニ当リ、其将卒ノ益々勇敢ニシテ沈着ナル動作欣賞ス。

右伝達ス。

三月三十日 海軍大臣

午後、齊藤參謀戦職ニ付退艦セリ。代リハ小倉大尉被命（寛一郎）ル。午後、福島氏へ書翰ヲ出ス。

四月一日 朝霧深シ 午後好天

午前、上村中将來艦。次キノ行動作戦ヲ議ス。三笠艦長之作戦意見ヲ聞ク。午前、細谷司令官ヨリ陸軍第一軍司令官ヨリ輸送ノ件ニ付、前進護衛ノ事ヲ協議アリ。鉄山半島^近附へ回航ノ旨承諾シ、島海外ニ水雷二隻ノ派遣ノ報告アリ。

四月二日 朝霧

午前、細谷司令官ヨリ我軍、定州域ニ於テ敵軍ヲ撃退セシ報知アリ（三月廿八日撃退ス）。午前、仁川在泊大島艦長工何分達スル迄ハ其ノ港工在泊ス可シト命令ヲ出ス。午前九時、浅間、常磐哨艦ヨリ來港。第二戦隊ヨリ山東岬角沖ニ哨艦二隻ツ、派遣セシタレトモ、本日ヨリ暫時中止ノ命ヲ出ス。午後、第一軍司令官ヨリ去二十七日、閉塞成功之祝詞ヲ受領シ直ニ答詞ヲ出ス。

四月三日 晴 朝霧アリ

午後、財部中佐軍令部長之使命ヲ受ケ來艦セリ。大臣ノ命モ伝フ。尚第二軍進軍之件ナリ。各司令官ヲ集合シ使命ヲ伝フ。将又是レヨリ進行ノ策戦上ニ付、各位ノ意見ヲ集メテ決スル所アリ。

四月四日 晴

午前、浅間、吾妻帰港。本日迄山東岬角近附ニ哨艦ノ為メ派遣シアリ。彼ノ方面ヲ此之際中止シ、之レヨリ他ノ行動ヲ起サンカ為メナリ。

四月五日 晴

午前、大島艦長ヨリ仁川碇泊ノ件ニ付申來リ、此ノ地ニ廻艦ノコトヲ命ス。仁川警備之コトハ絶対的の公使及陸軍ニ於テも不望旨、吉田公使官附ヨリ内告ノ次第モアリ。仁川方面之警備止ム。

四月六日 晴

午前、香港丸艦長來艦。伊藤大使、神戸帰着迄ノ有様ヲ聞ク。午

后、英国公使官附海軍大佐バアケハン氏來艦。朝日ニ乘艦ノコトニ取計フ。

午前、財部海軍中佐軍令部長ノ訓示ヲ齎シタル。進軍ノ件ヲ答フコトヲ決定ス。本月末ニ至ルヲ述フ置フ。

四月七日 晴

午前、明日出港ノ事ニ付、第四、第五駆逐隊及蛟龍丸ヲ以テ機械水雷沈置之件駆逐艦司令長井中佐真野中佐及小田布設隊司令^(大佐)へ訓示スル処分アリ。

午後、財部中佐、植田少佐帰途ニ付、^(山本)大臣閣下、^(伊東)軍令部長閣下^(東)ニエ伝言ヲ托ス。午前、明日ヨリ旅順口布設水雷ヲ沈置スル為メ出港ヲ決定ス。

午後大島艦長來艦。京城及仁川方面ノ情況ヲ聞ク。

四月八日 雨 東風アリ 天候悪天

本日午後五時、旅順口港口へ機械水雷沈置ノ為メ進行ノ筈ニ有之候処、雨天ニ付延日ス。芝罘領事ヨリ報知ニ依レハ、一昨夜四隻ノ軍艦ニ出合ヒ灯火ナシニ航行シタリ艦隊在リ。多分露艦ナラント云フ。

昨日、外波中佐ヨリノ報告ニ一昨日円島沖ニテ午前九時、英舟ハイマン号ヲ実弾ヲ発射シ中止ヲ命セリ。四十五分時間余ヲ以テ臨檢ヲナシタルコトヲ報告アリ。露艦ハ、^(バ)ヤーンナリト云フ。午後、悪天ニ付、各艦安全ノ方法ヲ取ルコトヲ命令ス。午後七時頃、最モ悪天ナリ

四月九日 晴

夜、^(正)子比^(平)より追々風力減ス。午前六時ニ至リ平穩ニ復ス。天

候ノ為メ行動ヲ延引ス。電信監督増田少佐ヨリ報告ニ陸軍司令部ヨリ海州迄ノ電線何処カ絶斷シ不通ノ告知アリ。

四月十日 晴 風力三 午后曇

昨日、第一駆逐隊司令ノ事ニ付内告アリ。午前、^(上村)司令長官來艦。同時ニ出羽、^(瓜生)司令官來艦。本日出港、旅順港口エ水雷沈置ノ為メ前進ノ筈ナルニ、天候悪荒ナルヲ以テ出動ヲ見合セ日延ニ決ス。午後、日進、春日大青島附近ニ來リ、明日午前十時、第二集合点ニ入ルコトヲ電信以テ報告アリ。午後、故広瀬中佐、來ル十三日、東京ニ於テ葬式施行ニ付、同幹事ニ依托シ弔詞ヲ靈前ニ送り同情ヲ表スル事ヲ乞フ。

四月十一日 曇 日曜

午前十一時三十分、日進、春日第二集合点エ入港ス。直ニ兩艦長來艦。航海中ノ情況諸報告ヲ聞ク。午后五時、旅順口エ向キ第一、三戰隊ト浅間、常磐ヲ加フ。及ヒ第二、四、五駆逐隊出港。明日第二戰隊(日進、春日ヲ加フ)、及第九水雷艇隊出港ノ事ニ決ス。駆逐隊ハ第二、四、五隊ナリ。

四月十二日 晴 天候好 月曜 午后曇夜中雨降

午前、黄海ニ在リ。異情無ク行進ス。天候至テ穩カナリ。昨日、^(抵)氣圧^(下)ルコトノ報知有リシモ、上海ヨリ東北ニ向フト有ルニ出港シタルモ至テ靜波ナリ。予定ノ如ク行路取ル。午后六時三十分、円島南方ニ於テ第二、四、五駆逐隊及蛟龍丸ヲ旅順沖ニ進行セシメ、水雷布設ヲ成功スル為メ登舷礼式ヲ施行シ、祝声ヲ揚ケテ別カレル。是ヨリ艦隊ハ予定航路ヲ進ム。

四月十三日 攻撃七回

午前六時、田島沖ニ至リ駆逐艦水雷艇ヲ待ツ。午前八時、諸艦艇ニ会合ス。昨夜、水雷沈置ハ予定ノ如ク沈置ス。各艦異情無ク集合ス。探海灯ハ七ヶ所ニ灯火シタリト云フ。一ヶ所ハ第四駆逐隊ヨリ射撃ノ為メ消火シタリト云フ。

午前七時三十分、千歳ヨリ第二駆逐隊ハ敵ノ駆逐艦ヲ一隻撃沈シ、外ニ壹隻ハ旅順ヘ退却シタリ。

午前九時、千歳ヨリ敵艦ノ主力ト交戦シツ、アリト通告アリ。直ニ本隊ハ敵ニ向ヒ進行ス。之レヲ見ルヤ否ヤ。砲台下ニ退却シ港口ニ向フ。又鮮生角砲台下ニ添フテ運動スル。途中、昨日我沈置シタル水雷ニ触レ爆沈シタル一艦。彼レノ先導艦ナリ。則チ旗艦ベアトロボロスクナリ。此ノ時、午前十一時三十六分ナリ。誠ニ愉快限無キノ感ヲ發ス。偶然ニ天皇陛下万歳ヲ發声シタリ。我カ艦隊ハ十里余ヲ離シ、沖ノ方ヲ示威運動中ナリ。敵ノ艦隊ハ砲台下ヲ離レズ運動シツ、アリ。正午過キ、駆逐艦隊ハ南東ニ方向ヲ取り引揚ケツ、アリ。昨夜、交戦中輕傷一名アリ。戰鬥力ニ少シモ故障無シ。負傷者ハ淺間ニ取与ス。今夜、海洋島東方沖ニ仮泊ノ予定ナリ。水雷艇隊ハ昨夜、清舟ト衝突シ、二隻故障ヲ生シ、直ニ第二集合点ニ行カシムト報告ヲ得タリ。

四月十四日 晴 靜

午前七時、海洋島東方沖ヲ凡十里ノ所ニ第一、二、三戰隊投錨。駆逐隊、水雷艇隊及日光丸、蛟龍丸ハ海洋島錨地ニ碇泊ス。午後一時、各艦長以上ヲ集メ、明日旅順口砲撃ノ行動ヲ画策ヲ与ヘ、之レハ老鉄山方面ヨリ射撃ヲ与ユルノ策ナリ。駆逐艦、水雷艇ハ正子頃ニ旅順口港外ニ至リ電機灯位置ヲ確カムル為メ、又敵艦港外ニ有ラハ撃沈スルコト、又第一、三戰隊ヲ旅順沖ニ進行

ノコト、第二戰隊日光丸、蛟龍丸ハ第二集合地点ニ回航ノコト、訓示ス。午後六時、海洋島沖ヲ出艦、旅順口港に向フ。

四月十五日 曇 午前九時小雨

午前七時、芝罘沖ニ於テ独乙商舟ヲ止メ龍田ヲ以テ臨檢セシム。後チ報告ニ臨檢ノ結果、別ニ疑フ可キ戰事戰事禁制品ヲ無キヲ以テ解放セリト信号アリ。此ノ商舟ハ當口ヘ回舟ノ者ナリト云フ。午前八時五十分、浮流機械水雷ヲ發見シ、八島ニ令シ發火セシメタリ。此ノ位置ハ老鉄山南方十里ニ有リ。又統テ初瀬ヲ以テ二個ヲ發火シメタリ。午前九時三十分ヨリ旅順口砲撃ヲ春日、日進ヲ以テ老鉄山ノ西方ヨリ射撃ヲナサシム。午後零時四十分、射撃ヲ止メノ信号ヲナス。此ノ砲撃ハ大ナル損害ヲ加エタル者ト信ス。是レヨリ艦隊ハ総テ第二集合点ニ引揚ケルコトヲ命令ス。敵ノ挙動ハ港内ニ有リテ、一二ノ戰鬪艦ヨリ我レニ向フ。十二時砲ヲ射撃シタルモ、我ニ少シノ損害無シ。一艦モ港外ニ出テス。

四月十六日 晴

午前九時、大青島沖ニ至ル。午后一時、鷄島沖ニ投錨。第三戰隊モ統テ投錨セリ。午后二時、大本營エ十三日、旅順口攻撃ノ情況ヲ報告ス。午后、第二、四戰隊工浦塹斯德攻撃ノ為、午后出艦ヲ命令ス。第一駆逐隊ヲ附属セシム。外ニ母艦ヲ日光丸、春日丸附属セシム。

四月十七日 晴 日曜日

午前、有馬參謀ノ事ヲ人事局長工述ル。午前、軍令部長ヨリ去ル十三日、旅順口攻撃ノ成功ノ頌詞ヲ受ク。直ニ答事答事ヲ發ス。統

テ海軍大臣ヨリ同断。直ニ答詞ヲ出ス。午後左之御勅語ヲ賜ルノ電信ヲ受領ス。
本日、貴官ニ左之御勅語ヲ賜ハル。

聯合艦隊ハ旅順口ニ迫リ敵艦ヲ沈メ偉功ヲ奏セリ。朕甚之ヲ嘉賞ス。

四月十七日 大本營ニ於テ。伊東軍令部長

奉答

今回旅順口攻撃ニ於ケル聯合艦隊ノ奏効ノ如キハ一ツモ陛下ノ御威徳ノ然ラシムル者ニテ、臣等人カノ及フ処ニアラス。然ルニ又優渥ナル御勅語ヲ賜リ臣等恐惶ニ耐ヘス。尚ホ益々精勵殘敵ヲ掃滅センコトヲ期ス。
右謹而奏ス。

四月十七日 聯合艦隊司令長官東郷平八郎

午後五時三十分、各艦長及司令官以上ヲ集合シ御勅語ヲ拝読ン、之レヲ部下一統エ伝達セシム。

四月十八日 穩 鷗島中

午前、大島大砲取替ノ呉工回航ノ件ヲ達ス。

午後、神戸丸病院舟ヲ舞鶴工向ケ出港。午后、春日丸着。角川大佐來艦。

四月十九日

午前八時、山城丸着。井上侍從武官、黒水東宮武官ヲ慰問トシテ差遣サル。優渥ナル御令詞及御物品料ヲ下賜ル。実ニ感激ノ

至リ不堪。益々奮勵国家ノ為事務局ノ成功ヲ期スル事ヲ上奏願フ。直ニ侍從武官長エハ電報ヲ以御礼申上ル。皇太子殿下ヨリ大刀一振下シ賜リ、依テ村木東宮武官長エ電信ヲ以テ御礼申上ル。是迄ノ戦情ヲ逐一兩侍從武官エ述ル。午后、濟遠來港。
○上部欄外「拝領刀ハ備前一文字吉房ノ作ナリ」

四月廿日 晴

午前、第三戰隊エ海洋島迄電信線架設ノ為、沖繩丸ヲ護衛シ同航。及大孤山附近沿岸上陸点取調ノ為メ午后出艦ノ事ヲ命ス。第十四艇隊ヲ附屬スル事ヲ命ス。午后、濟遠出艦。大同江へ廻航ス。有馬參謀轉乘シ退艦ス。濟遠ニ便乘。大同江視察ノ為出發。彼ノ地ヨリ直ニ帰國ノ筈ナリ。

午後、井上侍從武官ヲ見舞フ。及黒水武官同断。山城丸ニ至ル。

四月廿一日 晴

午前、井上侍從武官及黒水東宮武官來艦。今夕、山城丸ニテ帰國ニ付、井上氏ニ東京宅エ書狀ヲ出ス。午後、軍令部ヨリ山下大佐、高木少佐來着。陸軍行動ニ付、掩護ノ件ニ付打合ノ為メナリ。亦陸海軍聯合作戰行動ノ事ヲ参画スル為ナリ。陸軍々司令ハ字品ヲ本日出發スル予定ナルヲ聞ク。

四月廿二日 晴

鷗島錨地ニ在リ。午前十一時三十分、宮古着ク。続テ第三艦隊敵島、鎮遠、松島、橋立、明石、須磨、秋津洲、和泉來着。片岡中將來訪。并各艦長來艦。本日より第三艦隊ヨリ大青島附近ニ哨艦ヲ出ス。海洋島方面ヨリ連絡ヲ取ルコトヲ命ス。

四月廿三日 曇

午前、第二艦隊元山津ヲ出港。浦塩斯德工行進。廿八日ニ再び元山津帰港ノ予定ナリ。

四月廿四日

午前、笠置帰港。出羽司令官ヨリ報告ヲ山路參謀持參來艦。午前、片岡中將來艦セリ。午后、第二軍々司令官奧大將來艦。陸海軍行動ニ付來艦。軍令部ヨリ上泉大佐來ル。午後二時、奧大將ヲ松山丸ニ訪問ス。税所少將ニ面会セリ。午后、赤城艦長林子雄來艦。閉塞ノ事ヲ内訓ス。

四月廿五日 晴

鷄島在リ。午前、三閉塞員ヲ内定ノ事參謀長ヨリ聞ク。午後、元山領事ヨリ敵艦元山港工進入。我商舟ヲ撃沈シタルコトヲ報知アリ。我カ水雷艇隊四隻ト運送舟金州丸ヲ被害サレタルコトヲ案ス。第二艦隊ハ昨夜浦塩港口工達シタル予定ナリ。敵艦來襲ヲ聞クニ中途ニ於テ行違シ事誠ニ遺憾ナリ。

四月廿六日 曇 小雨

午后、千歳ヨリ電信ニ陸兵上陸場調査セリ、西ツ^{ツツ}ウンクス^スノ沿岸適当ト認ムルコト報知アリ。本日午前十時、帰港ノ旨ヲ通信アリ。昨日、清国軍艦ト海洋島沖ニ於テ出合シタリト云フ。午後八時、宮古入港。第十四艇隊同斷。

午前、元山領事ヨリノ電報ニ昨日ハ彼ノ地濃霧ニテ水雷艇ハ安全ト被察ナリ。可成速カニ艇ニ通信ノ方法ヲ取りツ、アリト通信アリ。午前十時、第三戰隊海洋島附近ヨリ上陸場取調ノ上帰港。出羽司令官來艦報告アリ。長山列島ハ水雷布設無キ者ト認

定。最モ疑敷場所ヲ三ヶ所掃海セシ。又土人ニ聞キタルモ、今年ニ至リ一回モ露人來所無シ。又上陸地点ハ適当ノ所アリ。西ツ^{ツツ}ウンクス^スヲ指定ス^{下ニ付}云フ。清国軍艦海奇号海洋島沖ニ來リ信号以テ艦隊ニ近ツクコトヲ許サレタリ。之レヲ司令長官ニ通スルコトヲ乞フト云フ。午後四時三十分、吉田少佐ヨリ元山津エ

第二戰隊及第四戰隊第一逐隊隊着ノ報知アリ。午後、第一艦隊ノ第二小隊初瀬、敷島、八島（八雲加）、及龍田、第三、四、五駆逐隊ヲ旅順口斥候ノ梨羽司令官率ヒ、明朝五時三十分、出艦ノコトヲ各艦長及司令ヲ集メ命令ヲ為ス。午後、伏見宮御病氣ノ件ニ付大臣工報告。午前五時三十分、第一艦隊第二小隊ト八雲、龍田ヲ旅順沖ニ向キ出艦ス。外ニ第三、四、五駆逐隊ナリ。

四月廿七日 晴

午前、上村第二艦隊司令長官元山港ヨリ電報ニ、午後一時元山津工着、直ニ領事來艦。昨日、敵艦來港。我カ商舟ヲ撃沈シ港口迄クロムボイロシヤリユリック來リ。午後二時、北東ヲ指シテ出港セルト。故ニ直ニ浦塩斯德工再ヒ用意ノトキ。我カ水雷隊帰港ス。運送舟金州丸ハ帰港セス。依テ再ヒ水雷隊ヲ以テ索探スルノ為メ差出セシト云フ。金州丸不詳。午前、依仁親王殿下ヲ大坂丸ニ御伺候致ノ事。御病氣ハ午后御指術相濟ミ、結果良好ノコト、鈴木軍医大監ヨリ承知セリ。午前、植田少佐赴任ス。東京托^{モカ}ヨリ書状ヲ至達ス。本日、陸海軍聯合陸上作戰ヲ定ム。來ル三日ヨリ始ム。午后十一時、吉田少佐ヨリ報知ニ、金州丸生存者四十五人新浦工揚ル。姓名ハ不分。

四月廿八日

午前二時迄、旅順口電気灯位置ヲ視察ノ為、第三閉塞員、指揮官ヲ為乗タル第三、四、五駆逐隊及第一戰隊第二小隊ハ円島ニ集合ノ筈。是ハ第三閉塞隊指揮官ヲ旅順口外ヲ視察ノ為出セシトキナリ。

四月廿九日

午前十一時、予定ノ如ク第一戰隊及第三、四、五駆逐隊旅順口ヲ視察シ帰港ス。梨羽司令官ヨリ他ニ異情ナシ、港口ニ於テ我レヨリ浮投シタル火煙ニ対シ、砲台ヨリ五、六発ヲ砲火シタルト云フ。敵艦不見得、至テ静カナリシト云フ。午後、齊藤孝至來訪。大臣ヨリ伝言ヲ持來リ、將校進級ノ事及病氣等ノ者速カニ換ルコト、又外国交際上ノ現情、新聞上エ戦情掲揚之事、戰地ニ於テ食品渡方不公平ノ事、新聞上頭ハレタルヲ事実ナルヤ否ヤ、石炭等意ノ如ク至達ノ事、其他兵員慰問ハ勿論ナリ、其他ノ事も齎ラシ來艦セリ。午後、報告ヲ得ルニ去ル廿五日午後九時比、新浦沖ニ於テ金州丸敵ヨリ撃沈サレタルコト、生存者四十六名、其他商人及人夫八名元山津工帰港ノコト。將校監督并主計長其他若干ハ捕虜トナリ、千歳ノ遺憾ナリ。午後、出羽司令官來訪。

四月三十日

午前十一時、水雷艇隊ヨリ去ル廿五日午前六時、金州丸八元山津ヲ発シ陸軍ヲ一中隊乗組セ、偵察ノ為メ利源灣工上陸ノ上、午後九時、再ヒ陸兵収与ノ上、同灣ヲ発シ、途中新浦沖ニ於テ敵艦ト出合、左右前後ヲ囲ヒ艦長ト応答ノ上、艦長、監督官、主計長、其他幾何敵艦ロシア号ニ至リ、外ニ若干ノ数捕虜トナリ、其他水雷ヲ以テ撃沈セシニ、生存者五十六名新浦工端舟ニテ至

リ、他ハ不明トノ報告ナリ。今朝、日光丸、香港丸、筑紫大同江口エ向キ出發。午前、西京丸鷓島工着。軍医長來訪。患者ノ情況ヲ聞ク。及舞鶴鎮守府司令長官及京都府知事ノ伝言ヲ聞ク。午前、大長山列島占領ノ後チ、土民エ告示ヲ出ス。正午、明石哨艦ヨリ入港。

午後三時、各艦長及司令ヲ三笠ニ集合。次キノ行動ヲ起スニ付内訓シ、終テ今度ノ行動ヲ起スニ先キンシテ、天皇陛下ノ万歳ヲ祝シ、次キノ各位ノ健全ヲ祝シテ開散ス。

午後六時、司令官以上ヲ招待シ、今度ノ第三閉塞隊各士官以上ヲ呼ビ、立食ヲ共ニシ祝意ヲ述ヘ、午後七時三十分開散ス。午後八時、大島來港。艦長來艦。報告ヲ聞ク。

五月一日 晴

午前十一時、齋藤大佐來艦。本日、帰国ニ向キマスニ付、海軍大臣エ將校進級ノ件等ヲ述フ。

午前五時三十分、第三艦隊出港。大同江ニ至リ海陸合同策戰ノ行動ヲ起ス為メニ出發ス。

午後五時、第一艦隊及第二、三、四、五駆逐隊、水雷艇隊(九、十、十四、十六)ヲ閉塞艦隊出發シ、旅順ニ向フ。其他二島海、赤城、大島附属セリ。天候静穩ナリ。午前、第二艦隊工竹敷及鎮海湾ニ在泊シ、朝鮮海峡ヲ扼スル事ヲ訓令ス。

五月二日 午前曇午后晴 風力五

午前六時、大同江沖ヲ過ル。午後八時過キヨリ北西ノ風起ル。四、五ノ力ナリ。雨晴計ハ二九、八ナリ。追々昇揚スルヲ以テ、天候如何ナル乎案タルモ格別ノコト無キヲ以テ前進ス。午後一時比ヨリ追々風静ナルヲ以テ益々前進ス。午后零時三十分、釜山

丸故障ノ信号アリ(蒸氣不揚)。然レトモ後ヨリ続行ス。午後、下士進級決定候補順ヲ決定ス。午后七時、田島沖ニ於テ閉塞隊及駆逐隊二、三、四、五隊、水雷艇隊九、十、十四、十六隊ナリ。他、赤城、島海附属シテ前進ス。第一、三戦隊ハ予定ノ如ク運動ヲ取ル。翌朝、旅順沖ニ於テ集合ノ事。

(第三回閉塞)

五月三日 荒天 午前六時比ヨリ静

午前八時、旅順沖エ至リ、昨夜ノ閉塞ノ情況ヲ聞クニ、総指揮官ヨリ天候荒天ノ為メ順延ノ信号致セシニ、三番船迄ハ通信達シタルモ四番五番七番十二番船ハ信号不明ニ付、四番船以下ハ閉塞ヲ決行シ予定ノ如ク進行セリ。一、二、三番船ハ引還シ後令ヲ待ツコトニセリ。駆逐隊、水雷艇隊ハ長山列島ニ引揚ク。第一、三戦隊ハ沖ニ航シ、明朝長山列島エ集合ノ予定ナリ。然ルニ陸軍輸送ヲ起サ、レハ、五馬島附近ニ至ル賦リナリ。

五月四日 濃霧

午前四時頃ヨリ濃霧起リ、予定ノ通航行スルコト不能、又本日ヨリ陸軍策戦行動不起ヲ以テ、海洋島東方ニ午前七時三十分投錨。午前八島ヨリ伝信ヲ以テ片岡第三艦隊司令長官エ命令ヲ伝ヘタルコト信電アリ。此ノ命令ハ陸軍行動ヲ起スノ件ナリ。午前九時、細谷司令官ヨリノ通信ニ、去一日ノ戦争ニ陸軍ハ敵ノ軍団長及師団長ヲ負傷セシコトヲ參謀総長ヨリ通信アリト云フ(軍団長ハハリ子ウキツチカ、ステツセル將軍カ)。

午前九時、霧晴レルニ付、出艦ヲ命シタルトモ、再ヒ濃霧起リシニ依リ直ニ投錨ヲ命ス。午前九時三十分、八島ヨリ信号アリ。海洋島ニ滯泊ス。外ニ釜山丸、江戸丸、愛国丸、及水雷艇一隻

ナリ。正午十二時、海洋島東方ヨリ投錨。長山列島ニ至ル。午後八時、光緑島東方ニ投錨ス。第三戦隊モ投錨。同十時、揚第三戦隊も同シ沖方ニ航シ、明朝早朝、旅順沖ニ至ルノ予定。本日、陸軍運送舟ハ大同江ヲ出発。第五、六戦隊モ行動ヲ起セシ事、第三艦隊司令長ヨリ信電アリ。

五月五日 晴

早朝、長山列島内部塩東湾ヨリ陸軍揚陸ヲ初メ、我陸戦隊ハ塩東湾北方沿岸ヨリ上陸シ一ノ高地ヲ占領シ、続々陸軍兵ヲ揚陸セシメ、午前十時、陸軍ト交代シ帰艦セシコトヲ敵島ヨリ報告アリ。

第一、二戦隊ハ旅順口沖ニアリ。一昨日、閉塞ノ結果ヲ遠視スルニ、四隻ハ港口通路ノ要所ニ達セシコトヲ見ル。午后三時三十分、第三戦隊ヲ旅順口沖ニ封鎖セシメ、午後七時ヨリ第二、三、四、五駆隊ト交代シ、明早朝、再ヒ旅順沖ニ封鎖之子定。第一戦隊ハ明朝、上陸地点ヲ回航ノ予定ナリ。

五月六日 晴 南風

午前九時、塩太湾エ着ス。陸軍上陸ノ情況ヲ聞ク。今朝六時迄ニハ普蘭店ヲ占領シ、鉄道線ヲ破壊ノ予定ナリト云フ。敵ノ抵抗ハナシ。比子家二百騎位ノ騎兵アリ。之レヲ軍艦愛宕艦ヨツ砲撃シテ退却セシメタリト云フ。本日迄陸軍ハ一万五千余揚陸シタリト。午後ニ至リ風波起リ、海岸困難ヲ感シ上陸中止ノ在様ナリ。第三回閉塞行動ノ結果ヲ大本営エ報告ス。

五月七日 晴 南風

午前五時比ヨリ風波減シ、追々上陸軍進行ス。午后ニ至リ上陸

地点ヲ南方ニ変ス。幾分カ風波ヲ防クト云フ。第一戦隊ハ午前八時、旅順沖ニ封鎖任務ニ従事ス。昨夜、駆逐隊二隊、水雷艇隊二隊、旅順沖ニ配置シ警戒ヲナス。敵ノ在様異情ナシ。時々爆發ヲナス。声暗ヲ聞クト云フ。多分閉塞船ヲ破壊スルコトヲ信ス。昨夜、大連湾方面ニ火明ヲ見ル。午後、細谷司令官ヨリ陸軍報告ニ蓋平方面ヨリ敵兵統々來向スルト云フ。

五月八日 晴 日曜

午前、第三回閉塞ニ付、御勅語ヲ賜ル。
聯合艦隊ハ三度旅順口閉塞ノ壮挙ヲ行ヒ、猛激ナル敵ノ抵抗ヲ排シ、其目的ヲ達セリト聞ク。朕倍々其事ニ興リタル將校下士卒ノ忠烈ヲ嘉ス

奉 答

旅順口閉塞ノ挙ニ対シ三度優渥ナル勅語ヲ賜ハリ臣等感激ニ堪ヘス。
今ヤ作戰ノ局面ヲ大ニシ海上ノ任務益々加重スルヲ覚フ。臣等愈々奮勵全局ノ大捷ヲ収ムルニ勗メ、以テ聖旨ニ副エ奉ラシム事ヲ期ス。右謹テ奏ス。

午後六時、第三戦隊出艦。旅順方面ニ向フ。明早朝、第一艦隊ト交代ノ予定ナリ。細谷司令官ノ報告ニ陸軍上陸兵ハ午后迄ニ三万ノ兵揚陸スト云フ。午後、風波高シ。揚陸事業遂行スルヲ得スト云フ。南風三、四ノ力ナリ。濤高シ。夜中ニ至リ暫時減ス。

五月九日 晴

午前九時ヨリ陸軍上陸地点ヲ巡視ノ為出張ス。上泉大佐ヨリ情況ヲ聞ク。風波ノ為困難ナレモ、本日ハ第三回ノ運送舟隊ヲ揚陸シツ、アリト云フ。予定ヨリ二日後レタリ。第二回運送舟ハ皆済ミ、当港ヲ出發帰港セリト云フ。

午後五時、長山列島碇泊位置ニ至ル。第一艦隊ト合ス。午後、梨羽司令官來訪。旅順港方面ノ哨艦ノ情況ヲ聞ク。外ニ異情ナキモ駆逐艦二隻港外ヲ出テ、暫時ニシテ入港セルト云フ。閉塞隊員二名死体ヲ引揚タリ。一昨日ハ造船所ノ煙揚ルヲ不見ト雖トモ、昨日ハ煙ノ揚ルヲ見ル。午後、哨艦千歳ヨリ電信ニ大連湾方面ニ一時大ナル煙ノ揚ルヲ見ル。或ル所ノ火災ナラント云フ。

五月十日 午前濃霧

午前ヨリ濃霧甚シ。第三戦隊ハ午後ニ至リ旅順口沖濃霧ニテ監視不出來帰港シタシトノ電信ニ付、帰港スヘシト答フ。昨夜、監視ノ駆逐隊ノ報告ニ「タルニー」方面ニ度々爆發ノ響キアリト云フ。午後五時三十分ヨリ第一戦隊第二小队ヲ梨羽少將之レヲ率ヒ、旅順沖ニ監視ノ為出航セリ。午後、東宮武官黒水中佐ヨリ拝領ノ御太刀ヲ受領ス。

午後五時三十分、第三戦隊入港（長山列島）。出羽司令官來艦。旅順方面巡視中ノ情況ヲ聞ク。英国商舟ニテ新聞通信舟ニ旅順沖ニテ出會臨檢シタルモ疑ナキヲ以テ行通ヲ許スト云フ。彼ノ舟員ノ咄ニ風輩城ノ戦ヒニ敵ノ死傷四千ト云フ。

五月十一日 雨降 少シク霧アリ

昨夜、水雷艇四十六号光祿島附近ノ淺瀬ニ坐礁ノ事ヲ聞ク。今朝六時、満潮ヲ以テ引卸ス予定。午后、第一駆逐隊入港。浅井司令官來訪。午後、英国公使館附海軍士官パリハン氏、紙上ヲ

以テ英國政府ヨリ金千円ヲ閉塞隊死亡者工送金致度候可然取計
ラレ度旨依頼ニ付、受領シ海軍大臣工送金済ミ。午后、春日丸
佐世保へ向航ニ付、有川大佐来訪。

五月十二日 晴

午前七時三十分、梨羽司令官ヨリ哨艦ノ五隻異情無キコト電信
アリ。午前、宮古ヨリ報知ニ小笠灣ノ右側ニ敵兵一小隊ヲ見ル
ト云フ。本日、第三艦隊ヲ以テ大笠灣ヲ掃海スル為行動ヲ始ム。
午前十時、梨羽司令官ヨリ報ニ旅順口外ニ駆逐艦二外ニ水雷艇
ノ如ク者出テ、何物乎爆発セリ。午後、巖島片岡第三艦隊司令
長官ヨリ大笠灣掃海中、機械水雷爆発シ、水雷艇四十八号沈没セ
リ。死者六、傷者九名ヲ出ス。直ニ其ノ筋ニ報告ス。午後、英
国公使官附 RAKESBY 大佐来訪。午後、宮古入港。負傷者ヲ神戸
丸工入院セシムル為ナリ。午后、宮古艦長来艦セリ。大笠灣方
面ノ情况ヲ聞ク。

五月十三日 晴 少シ霧

午前九時、第一艦隊第二小隊（笠置、龍田加へ）監視ヨリ掃港
セリ。午前、第三艦隊第七戰隊工第十師団東ツウインクス海岸
上陸ヲ掩護セシムル事ヲ命ス。第十師団ハ十五日ヨリ十九日迄
大同江工集合シ、其ノ上海陸軍ト打合ノ上、揚陸地点ニ進行ヲ
決スルコトト云フ。午後一時、宮古大笠灣ニテ水雷二触レ沈没
シタルコトノ報告ヲ聞ク。

五月十四日 曇 濃霧

午前四時、千歳ヨリ伝信ニ午前一時三十分吉野沈没、春日衝突
シ端舟ニ収容シタル者多数アリ。濃霧ノ為ナリ。昨夜ヨリ霧深

キ為混難ヲ感ス。午後、千歳、富士ハ長山島西部ニ投錨。春日、
八雲ハ海洋島東部ニ投錨セリト云フ報告アリ。

吉野生存者、士官以上六名、下士以下九十八名収容ノ後チ死者
二人。

合計百〇四人。

○上部欄外「吉野沈没」

五月十五日 曇 濃霧

本日ヨリ第一師、第三師団ハ蓋平城方面ニ進軍ノ筈。第四師団
ハ金州城方面ニ行動ヲ起ス。午前十一時三十分、第一艦隊第二
小隊ハ梨羽司令官ヨリ老鉄山沖九哩ノ所ニテ初瀬水雷二触レ、
八島モ同シト云フ。暫時シテ又初瀬ハ沈没、引舟ヲ送レトアリ。
直ニ駆逐隊五隊ヲ旅順口沖ニ行進セメシ、損害艦ヲ掩護セシム
可シト命令ス。午后七時、八島ハ沈没免カレ難シト敷島ヨリ伝
報アリ。又暫時ニシテ龍田ヨリ敵駆逐艦隊本隊ヲ追撃セリト信
報アリ。

笠置、龍田、明石ノ各艦ヲ以テ初瀬、八島ノ乗員ヲ収容セシ、第
三集合地点ニ向フ航行中ノ報告アリ。

初瀬戦死者 准士官以上 三十六人
下士以下 四百五十七人

五月十六日 曇

午前七時三十分、昨夜九時、龍田ハ光祿島南西ノ海岸工乘坐ス
ト報告アリ。直ニ港務部員ヲ龍田工救助ノ為出張ス。午前、三
浦港務部長ヲ八島、円島附近ニ浮居ルヲ以引舟ヲナシ、救助ノ
方法ヲ取ルコトヲ命ス。千歳、笠置、浅間ヲ派遣スルコトヲ命
ス。後トニ至リ八島沈没ノ報告アリ。中村第三艦隊參謀長来艦。

大鷲湾ノ水雷掃海ノコトヲ聞ク。宮古沈没位置、水雷艇沈没位置ヨリ沖ニ在リ。水雷爆発数二十以上。湾ノ陸岸上ニ敵兵多数アリ。間ク砲撃ヲ加ヘタリト云フ。午後一時、第一、三、五驅逐隊ヲ旅順口沖ニ監視ノ為出ス。

五月十七日 晴

午前九時、第一驅逐隊帰港。報告ニ昨夜午后九時比、暁ハ旅順沖老鉄山ヨリ南東九哩余ノ沖ニテ水雷ニ触レ沈没ス。乗員ハ三十三名収容シ、他ハ不明ト報告アリ。友艦各々救助スト云フ。午后、第二軍參謀長ヨリ本日十三畔堡ヲ占領。明日ハ金州城ヨリ北及北東ノ高地ヲ占領シ、金州城工進軍ノ筈ナリ。金州湾ヨリ威嚇ハ霧中ニテ地上不視トアリ。午後三時、第六戰隊ハ金州湾砲撃ノ為進軍シ、威嚇砲撃ナス筈ナリ。午後四時、第五戰隊ハ大連湾沖ニ有ツテ威嚇運動ヲナス。昨夜、第一、二、三驅逐隊ハ旅順沖ヲ監視シツ、アリ、敵艦不見得ト報告アリ。昨夜、大島ハ直隸湾ニ於テ蓋州攻撃ノ帰途、赤城ト衝突シ沈没ノ報告ヲトル。大島ハ午后十一時比、衝突シ一時間余後チニ沈没シ、人員ハ皆友艦ニ収容ス。暁、戦死者準士官以上七名、下士以下十六人。

五月十八日 晴

午前七時、第六戰隊ハ金州湾沿岸威嚇行動。終ツテ廟島内部分海峽ヲ通過セルト信電アリ。之レヨリ予定航路ヲ航シ順港シツ、アリ。午後一時ヨリ第五、四驅逐隊ヲ帽島ト遇岩ノ間ヲ今夜監視ノ為ニ出ス。又午后六時ヨリ明朝、遇岩附近ヲ監視ノ為笠置須磨ヲ出ス。大島災難収与ノ兵員ハ福井丸、江同丸工移ス。負傷者神戸丸工

移ス。午後六時、第六戰隊長山列島工帰着。東郷第六戰隊司令官來訪。蓋州湾方面ノ情況ヲ聞ク。大島、赤城ノ衝突ハ濃霧ノ為ナリ。

五月十九日 晴

午前八時、第五驅逐隊ハ帰港。昨夕、敵ノ驅逐隊ト「ノルウヰック」出港シ、我水雷艇ヲ攻撃スト云フ。夕方二至リ港内ニ向フ。他ニ異情無シ。午后四時、機械水雷布設ヲ旅順口港外ニ沈置ノ為特別舟隊ヲ四隻ヲ出ス。第二、三驅逐隊及水雷艇隊一隊ト第三戰隊掩護シ出港ス。午後八時、笠置、須磨旅順口沖監視ヨリ帰港ス。笠置艦長來訪。他ニ異情無シ。チカゴデイリーニユス新聞者乗込ミ。ハルマン号ヲ遇岩南方ニ於テ檢臨シタルニ異情無シ。解放シタリ。又監視中八島沈没ト思フ位置ヲ注意シタレトモ、油水面ニ浮ヒタル形跡ヲ見スト報告アリ。

五月廿日 晴

午前十時三十分、旅順口ニ於テ監視ヨリ帰港。機械水雷子定ノ如ク沈置シタル。砲撃ヲ受ケタルモ負傷者ナシト云フ。午後四時、特別舟隊一、二、三、四号舟帰港。各指揮官ノ報告ニ故障無ク予定位置ニ水雷ヲ沈置シタリ。一号舟ニ一個ノ彈丸ヲ受タレトモ、一人トシテ負傷者無シ。敵ハ砲台ヨリ猛烈ナル射撃ヲ行ヒシモ損所少シト云フ。午後五時、吉野、初瀬人員春日丸ヨリ帰ス。午後七時、第三戰隊帰港。出羽司令官來艦。情報ヲ聞クニ、布設水雷掩護ノ後チ大連湾沖ニ於テ牽制ヲナス。又金州湾方面ニ類ニ砲声スト云フ。細谷司令官ヨリ明日、東「ツウイングス」ヲ出艦シ、長山列工回航ス可シ。第十師団ハ先着ノ者上陸済ミ、後トニ残リシ物ハ庫利ノミト云フ。

五月廿一日 晴

午前九時、昨夜旅順口沖監視ノ駆逐艦第三地点ニ帰り異常ナキヲ報告ス。又笠置、須磨、旅順沖監視中異情無キヲ報ス。
午前十一時、第二軍參謀長ヨリ第一及四師団ハ金州北方三千メートルノ地ニアリ交戦中ト報知アリ。

五月廿二日 晴

午后、第七戰隊大孤山方面ヨリ帰港。細谷司令官來艦。第十師団東ツリングス沿岸ニ上陸シ、第一回ノ輸送ノ分揚陸濟ミ別ニ異情無シ。明朝ヨリ第二軍揚陸事業ニ第六戰隊ト交代スル事ヲ命ス。午後五時、第三戰隊出港。旅順口監視ニ進行ス。千歳、高砂二艦ナリ。駆逐隊一隊ト水雷艇隊一隊ヲ哨区ニ出ス。

五月廿三日 晴 午後雨降

午前、千歳ヨリ旅順口沖ニテ異情無キ報ス。午后、第六戰隊陸軍兵揚陸ノ指揮ヲ第七戰隊工交代シ帰港。東郷第六戰隊司令官來艦。陸軍兵揚陸ノ在様ヲ聞ク。天候良好ナルヲ以テ大ニ運ヒ、
〔第五師団ハ揚陸濟ミト云フ。第三軍參謀長ヨリ明日ヨリ金州城南高地ノ敵防禦地ヲ攻撃ノ為進軍ス。来ル二十六日早天、攻撃ノ予定ナリト云フ。依テ第七戰隊ノ筑紫、平遠、赤城、愛宕及第一驅逐隊ヲ陸軍応援ノ為金州灣口廻艦ノ事ヲ決ス。又旅順口外ニ機械水雷ヲ沈置ノ件ヲ決ス。〕

五月廿四日 晴

午前、千歳ヨリ異情無シト旅順沖ヨリ報告アリ。第六戰隊ノ筑紫、平遠、赤城、愛宕及第一驅逐隊金州灣攻撃ノ為出港。又第三

戰隊ノ内、笠置、八雲、淺間旅順口監視ノ為メ出艦。千歳、高砂ト交代ノコト。午前十一時三十分、旅順口方面ニ方リ爆発ノ大音ヲ聞クト千歳ヨリ電信アリ。午後六時、千歳、高砂監視ヨリ帰港。出羽司令官來艦。監視中ノ情況ヲ聞ク。大連灣方面ヨリ芝罘工退去ノ清舟數隻アリ。其ノ内ニ仏人アリ。日フニ身ハ商人ニシテ「ラルニー」ニ居留セリ。近比ニ至リ日本軍ノ進入益々近キニアリ。商店ヲ閉チテ彼ノ地ヲ避ケ芝罘ニ行ク途中ナリト云フ。別ニ清国人商人体ノ者三十人余アリ。外ニ疑敷キ事無キニ依テ解放シ通過セシメタリ。

五月廿五日 晴

午前六時、第五戰隊大連灣沖ニ於テ陸軍金州攻撃ニ付、海面ヨリ威赫運動ノ為出港ス。昨日、第一軍參謀長ヨリ第二軍參謀長工電信ニ曰ク、昨日軸巖ニ至ル途中ニ於テ敵ト出会シ、士官ニ死傷三十余馬其他ノ物捕獲、其他ハ撃退セシムト云フ。又元山領事ノ報ニ城新方面ニ敵四、五百ノ騎兵襲來セリト云フ。午後一時ヨリ旗艦ニ於テ進級會議ヲ開ク。午前ヨリ金州方面ノ陸軍進撃ノ為乎砲襲盛ニ大連灣方面ニ聞ユルコトヲ敵島ヨリ報告アリ。

昨日午後ヨリ筑紫、平遠、赤城、島海及第一艇隊ハ金州ニ至リ敵ヲ砲撃シ陸軍ノ応援ヲナス。八雲、淺間ハ第三驅逐隊ト旅順口外監視ノ任ナリ。八雲ヨリ昨日迄ハ異情無キヲ報セリ。午後六時、第一二艦隊敵島、橋立、松島、大連灣沖監視ヨリ第三地点ニ帰港。他ニ異情無キモ大連灣背面ニ盛ナル砲声ヲ聞ク。午後至リ追々砲声止ムト云フ。午后、片岡中將來艦。監視ノ情況ヲ聞ク。

○上部欄外「魯圖。ボカチル坐礁。破壊ノ報アリ」

五月廿六日 半晴

午前八時、八雲、淺間旅順口監視中、三山島沖十里ニ有リ、異情無シ報告アリ。同時ニ扶桑ヨリ浪ミ高キ以テ揚陸中止ノ在様ナリ。

昨日午後八時、人事局長ヨリ山田大佐進級ノ件ニ付電信アリ。直ニ之レニ答信ス。昨日、封鎖事件布告ニ付、海軍大臣ニ信請セリ。

昨日、機械水雷布設第三回ヲ施行予定ニ有之候処、荒天ニ付延引ス。午后、第二軍參謀長ヨリ昨夕ヨリ我艦隊金州灣ニ於テ敵ヲ砲撃シツ、アリ、金州城ハ午前五時、我手ニ落ちタリ、蕪家屯ヲ攻撃中ノ報知アリ。昨夜、砲艦二隻、水雷艇二隻大連灣ニ入り、我陸軍ノ左翼ヲ砲撃スト云フ。敵艦入港ノ事ハ大連灣沖ニ於テ監視シタル者ノ語ナリ。

五月廿七日 晴 朝少シク霧アリ

午前九時、第六戰隊ヨリ金州進行ノ枝隊ハ午前七時老鉄山沖通過ス。

午前十一時、本隊エ合シ、之レヨリ第三集合地点ニ帰港ス。蕪家屯ハ昨日午後八時比、陸軍占領ト思フ、金州灣砲撃中死傷者九名アリ、島海艦長戦死ス、尚巨細ハ帰港ノ上報知スト云フ。之レハ明石ヨリ電信アリ。午後五時二十分、西山枝隊帰港。直ニ各艦長來艦。戦情ノ報告ヲ聞ク。一昨日廿五日午後二時、金州灣工達シ水雷艇二命シ掃海ヲ成セシモ風波高シ。故ニ一部分ヲ為セシ而已掃海ヲ止メ筑紫、平遠ハ、島工飯泊シ、島海、赤城ハ、島ニ飯泊ス。昨廿六日早朝ヨリ出艦シ、金州灣工午前六時ニ至リ蕪家屯砲台ヲ攻撃ヲ初メ終日砲撃ヲ為シタリ。

午後六時迄金州灣ニ在リ。夫レヨリ灣外ニ向フ。陸軍ハ多分午後八時比ニハ蕪家屯ヲ占領シタルコト信スト云フ。午後六時ニ追々砲壘近く進行セルヲ見ル。砲壘ノ砲撃ハ沈黙シ居ルト云フ。

陸軍第二軍參謀長ヨリノ電信ニ午後七時、蕪家屯ヲ占領シ敵ハ南関嶺ニ退却ス、我カ損害ハ思ノ外大ナリト云フ。本日、広瀬中佐ヲ以テ臨時島海艦長ヲ命ス。午后、六戰隊帰港。東郷司令官來訪。監視警戒中異変無キモ、清舟臨檢為シセシニ魯人八名、仏人一、夫レニ敵ノ郵便物所持シタルヲ以テ押収シ、之レハ要塞司令官ノスタルク氏ノ書翰モアルト云フ。又追々芝罘工避難者多シ、近比百五十人余ノ魯国人芝罘エ至ルト云フ。午前、龍田引卸シ予定ナリシモ、風波高キ以テ明日引卸スコトニ延引スト報告アリ。

○上部欄外「(金州^{遼東}午六時、蕪家屯^{遼東}午後七時、占領)」

五月廿八日 曇

午前九時ヨリ聯合艦隊ノ進級會議ヲ開ク。午前中ニ終ル。午前、第二軍司令官工蕪家嶺占領ノ祝詞ヲ述フ。又昨日午前、柳樹屯ヲ占領ス。敵ノ砲艦大連灣内ニ見得スト云フ。岩村參謀及百武少佐ヲ第二軍ト大連灣占領ノ後チ、此ノ后チ進行ノ順序ヲ打合セノ為メ第二軍司令部エ出ス。

午前、第三戰隊監視ヨリ異情無キヲ報告ス。

午前、松島ヨリタルニ^{遼東}火災アルト電信アリ。第二軍參謀長ノ通知ニ三十里保西南ヲ斥候セシメツ、アリト云フ。

(注) 青泥窪。大連灣の西側南端を指す。

五月廿九日 晴

午前、揚武ヲ芝罘エ「モクリ」ヲ収容ノ為メ出張セシム。今夕、

芝罘沖ニ於テ收容スル事ヲ森中佐工電信ヲ以テ約ス。午後一時、仮装砲艦一、二、三、四号ヲ旅順口外ニ機械水雷ヲ沈置ノ為メ出ス。水雷艇一、駆逐隊一隊ツ、掩護ノ為出張セシム。艦隊ハ第六戰隊監視ノ為メ同時ニ出艦セリ。午後七時、第三戰隊ノ千歲、高砂ヲ旅順沖監視ヨリ第三地点ニ帰港ス。出羽司令官來艦。哨戒中ノ情況ヲ報告アリ。一昨日、牛莊出船シタル商船七艘ハ豆粕ヲ積載シ芝罘ヲ經テ上海ニ行ク事ヲ申述タリ。外一異情無シ。以テ通過セシムト云フ。第七戰隊ヨリ陸軍運送舟ノ揚陸ノ報告ヲ聞ク。第二輸送ノ分三艘ヲ残シ外、皆揚陸済ミ明日ヨリ海軍ノ助手ハ中止ス可シト云フ。今朝、龍田引卸シ方ノ件、士官以テ報告アリ。午前、卸方試ミタレトモ、ポンプ少シク充分ナラス。又漏水ノ個所不充分ニテ日適ヲ達シ得ス。猶ホ十八度ニ傾キタレトモ、尚尽シテ明日ハ引卸スコトヲ得ベシト云フ。三浦少將ヨリノ通告アリ。

五月三十日 晴

昨夜、仮装砲艦水雷沈置ハ予定ノ通り明石東郷司令官ヨリ成功シタルコト報告アリ。第二仮装砲艦ニ死傷アリト云フ。他ハ無事ナリ。又報告ニ新タニ老鉄山ノ頭上ニ電灯ヲ設ケタルト云フ。午前、第二軍參謀長ヨリ軍医派遣ノ件ハ多謝ス。当着ノ上諸事打合ヘキコト。又大連灣布設水雷ノ數三七〇沈置ノ旨韓人某布設ノ節使役サレタル者アリ。海軍之者來港ナレハ明瞭スルナラント通知アリ。

午前十一時、武揚丸芝罘ヨリ帰港。「モクリ」四組ヲ列レ來レリ。大連灣内掃海ニ使役スル為ナリ。

午后二時、仮砲艦四隻予定ノ如ク機械水雷ヲ沈設シ第三地点ニ帰港ス。第三号砲艦ハ敵彈ヲ受ケ即死一、負傷者三アリ。新タ

ニ老鉄山東部中腹ニ砲台ヲ築キ、盛ニ砲撃ヲナセシ。又各砲台ヨリ砲火ヲナセシト云フ。

五月三十一日 晴

午前、軍令部次長報スル所ニ依レハ、第二軍ハ第三、四、五師團ハ遼陽城方面ニ進行ス。第一、十一師團ハ旅順方面ニ進行スト云フ。第三軍司令官ハ乃木中將參謀長ハ伊地知少將被命ト云フ。午後、八重山入港。艦長來艦。西山中佐ナリ。

午後、筑紫、秋津洲ヲ旅順沖哨戒ノ為出港。第六戰隊ハ午后迄哨戒ニ有ツテ入港セリ。

午後、旅順攻撃之事第三軍工打合。策戦ノ上可成速カニ攻戦ノ筈ナリ。

六月一日 雨降 雷光甚シ 雨晴計二九、七二下ル

午前、落合參謀長ヨリ電信ニ日ク、軍ハ安子山ト台子山ノ線ヲ占領シ予定ノ如ク結了スト云フ。岩村少佐、本日本連灣内偵察ヲナス筈ト云フ。本日ヨリ第三艦隊ヲ以テ大連灣内掃海ヲ始ムル命令ヲ發ス。

昨夜ヨリ雷光盛ニシテ雨降甚シ。第三地点ニ入りシ後チ、初メテノ荒天ナリ。坐礁ノ龍田ノ破壊ヲ憂フ。午后、波浪高キ故ニ哨戒ニ出發スヘキ駆逐艦及水雷艇帰港シテ、風靜ナル待ツテ出艦ヘシト云フ。然ト命ス。

六月二日 曇 雨晴計二九、六二下ル

午前、天候追々靜カル。笠置ヨリ濃霧ノ為北東ニ進ミ水深二十ニ至レハ投錨スヘキト云フ電信アリ。軍令部次長ヨリ元山港エ陸軍歩兵一大隊及砲兵一中隊派遣スルニ付、第二戰隊ヲ護衛セ

シムキ達シアリト通告アリ。午前、落合參謀長ヨリ魯軍大石橋ヲ歩兵二千、砲三十六門ヲ卒ヒ南下セリト云フ。昨日、陸上派遣軍医ノ報告ニ龍家屯ニ在リ、蕪家屯攻撃ニ死傷者合計三千五百三十七人ト云フ。第五戰隊以テ大連灣内掃海行動始ムル筈ニ有之候処、天候濃霧ノ為延引ス。午後、百武大尉第二軍司令部ヨリ帰艦。報告ヲ聞ク。

六月三日 晴

午前、軍令部長ヨリ魯軍ノ通報ヲ得タリ。旅順口防禦最終之期ニ至レハ、破壊云クノ命令アリタルヲ聞ク。真ナラス。午前九時、第五戰隊掃海ノ為出港。午後、帰港。片岡第三艦隊司令長官來艦。大連灣北之山島前ニ新発田丸ヲ碇泊セシメ、明日ヨリ掃海ニ懸ル事ヲ聞ク。午後、千歳、千代田出港。旅順口沖監視ノ為ナリ。亦笠置、秋津洲、午後、監視ヨリ帰港。笠置艦長來艦。異情無キヲ報告アリ。円島附近ニ於テ清舟ヲ臨檢セシモ、皆魚舟ナリト云フ。午後五時三十分、岩村參謀第二軍ヨリ帰り報告スル所アリ。

六月四日 晴

午前十一時、八幡丸人港。乃木第三軍司令官乗舟アリ。依テ直ニ訪問ス。陸軍ト共同行動ニ付談合ス。又軍司令官答礼アリ。午后零時一二十分、陸軍揚陸点ニ回航セラル。

午后、監視中ノ千歳ヨリ異情無シ、老鉄山頭上ニ無線電信柱ノ如ク者ヲ建設シタリト云フ。旅順口内ニ黒煙アリ。大連灣内ニ爆発起ル。遠巨離ナルヲ以テ何タル分ラス。察スル掃海ノ結果ナラン。石田驅逐隊司令ノ報告ニ昨夜、爆発ノ響ニ一回ヲ聞ク。小浜島内陸ノ方面ニ方リ数発ノ砲声ヲ聞ク。又我カ陸軍ハ小浜

島沿岸ノ所迄進行シ居ル事ヲ見ル、ト云フ。

又三山島沖ニ於テ一個ノ浮水雷ヲ見ル。之レヲ爆発セシメタト云フ。午前十二時、第六戰隊司令官エ蓋平方面沿岸威嚇運動ヲナス為廻航ノ事ヲ命令ス。明日午前、出艦ノ予定。又第三戰隊司令官エ明日午前、旅口方面監視ノ為出艦ノ事ヲ命ス。大連灣掃海ハ昨日ヨリ連続実行ス。午後八時ニ報告ニ四個ノ水雷ヲ爆発ス。清舟ヲ用ヒ灣内ノ通過ハ危害ナシト云フ。岩村參謀「タルニー」迄行過シタルコトヲ聞ク。午後、細谷司令官ヨリ伝通スル所ヨレハ、比子過兵站部長ヨリ同地ヨリ拾里ノ所ニ敵迫り來リ、以テ余家屯エ移送スル故、海岸方面ヲ海軍ヲ以テ掩護ノ件ヲ依頼來ルニ付、直ニ濟遠ヲ彼地ニ回航シ応援ヲ命ス。又陸戰隊ハ普蘭店、比子過線ノ左翼ニ応援スル用意ニ着手ス。

六月五日 濃霧

本日午前、第六戰隊出港。蓋平方面ヲ牽制ノ為出発ノ筈ニ有之候処、濃霧ノ為出港ヲ見合ス。午後一時、松島、大連灣エ見張ノ為出艦。今朝ヨリ濃霧ノ為妨ケラレ、第五驅逐隊掃海セシモ、天候晴レタル以テ午後一時、出港。真野第五驅逐隊司令ヨリ昨午後七時三十分、滿壽山下ニ於テ、敵ノ砲艦一隻機械水雷ニ懸リ沈没シタリ。「ギリヤク」形ナリト云フ。他ニハ驅逐艦等數者ト砲艦四隻ヲ見ルト云フ。直ニ皆、旅順口内ニ入ルト云フ。午前、山階宮殿下ヲ伺候ス。明朝、山城丸ヨリ御帰國ノ事ニ依リ伺候ス。午後、落合參謀長ヨリ北方ノ敵南下スルモ緩ナル挙動ニ付、陸戰隊上陸ハ見合セラレタシ、上陸ヲ要スル場合ハ、前二日ニ御通知可致ニ付、第三地点ニ投錨セラレタシトアリ。

六月六日 曇 午后好天ナリ

午前七時、第六戰隊出港（宇治、赤城一艇隊ヲ加ヘ）。蓋平沖ニ向航。正午、仮装砲艦一、二、一二、四号旅順口外ニ機械水雷沈置ノ為出港。午後一時、第三戰隊ノ内、八雲、高砂ヲ旅順沖哨戒ノ為出港。午後七時、千歳、千代田監視ヨリ帰港。

午前十一時、大臣ヨリ海軍大將工昇進セラレコト電信アリ。直ニ大將旗ヲ大橋工揚ク。又海軍大臣昇進ニ付祝電ヲ出ス。午後、島海艦長來艦。比子^過方面ノ陸軍兵站部ヲ引移ス為メ助力ヲナス。敵近キ迫ルシ故ヘ一時、陸軍兵員ハ退却セシナラン。又昨日再ヒ、ヒシクワエ我カ兵ヲ進行セシメタルヲ見ルト報ス。本日、大連灣掃海ハ三十一個ヲ爆発スト云フ。

六月七日

午前九時、橋立ヨリ電信ニ仮装砲艦水雷沈置ハ予定ノ如ク設置シタリ。第四号舟ニ敵彈ヲ受ケ、一名負傷、他ハ異情無シト云フ。午前九時二十分、艦載水雷艇八隻水雷沈置ノ為旅順口外ニ進行ス。午前十一時三十分、仮装砲艦帰港。第四号ノ傷者ハ死一、輕傷者三名ト云フ。其ノ他故障無シ。各指揮官ヲ集メテ報告ヲ聞ク。午前、岩村參謀大連灣ヨリ帰り報告ヲ聞ク。本日迄三十一個ノ水雷ヲ爆発セルト云フ。尚ヲ行通ヲ要スル迄ニ八十日ヲ見込ト云フ。

艦載水雷艇隊指揮官ハ左之通

艦載水雷艇隊司令	田中少佐
三笠々々 指揮	普門少尉
朝日々々	今橋中尉
富士々々	片岡少尉
敷島々々	土肥中尉
八島々々	水木少尉

八島々々 島山貞美
八雲々々 竹内正
浅間々々 堀田正路
午後七時三十分、第二軍司令官ヨリ揚陸場付近警戒ノ為陸戰隊揚陸ノ件請求シ來リ。直ニ応スルコトヲ答フ。又陸戰隊司令ニ明日陸軍上陸場附近警戒ノ為、陸戰隊ヲ上陸セシム可シト命令ヲ出ス。

六月八日 晴

午前七時、浅間、笠置ヲ旅順口外監視ノ為出艦ス。八重山ハ大連灣沖哨戒ノ為出艦。午前九時三十分、八雲ヨリ旅順口外ニ在リ、陸上方面ニ盛ニ砲声ヲ聞クト云フ。午前十一時三十分、前田正一名來艦。慰問ノ為ナリ。午后三時、艦載水雷艇隊帰港。予定ノ如ク水雷布設ハ沈置ス。帰途、帽島附近沖ニテ八雲、水雷艇ヲ驅逐艦ヲ以テ引舟ヲナス節、過チテ水中ニ引込沈没セシメタリトノ報告ヲ得ル。死没者二名、他ハ直ニ友艇ニ收容セシト云フ。午後七時、八雲、高砂哨戒ヨリ帰港。出羽司令官來艦、報告アリ。午後三時、第二軍參謀長ヨリ普蘭店西灣ニ於テ敵ノ驅逐艦一隻捕獲セリ。損害少シ。清人ヲ以テ番ヲ附シ居ル旨報知アリ。

六月九日 晴 靜

午前、仮装砲艦六隻着港。午前、第六戰隊ヨリ金州灣エ乘リ捨タル敵ノ驅逐艇引卸シニ着手セリ。哨艦ニ出テタルニ浅間ニ一日帰港ヲ延フト電信ヲ以テ令ヲ出ス。昨日、軸巖ヲ占領シタル報知第一軍司令官ヨリ通知アリ。午后、大連灣ノ掃海ヲ第一区ニ懸リ、之ノ部分ハ水雷ヲ見当ラス。兵員異情無シト吉島指揮官ヨリ報告アリ。

六月十日 霧

午前、比子過^渡方面ヨリ敵ノ進行ヲ憂ヒ愛宕ヲ彼ノ沿岸ニ応援ノ為派遣スルコトヲ命ス。午后、浅間、笠置哨区ヨリ帰港ノ予定ニアリシカ、濃霧ノ為明日迄継続哨戒スルコトヲ電信ヲ以テ命令ス。午後一時十五分、勲章授与式ヲ施行ス。芝罘森中佐ヨリ魯國領事館ニ於テ無線電信ヲ取^送フコトヲ報知アリ。

午後、第六戦隊ヨリ「アラムス」湾ニアル敵ノ駆逐艇ハ損所ノ一部舟底ニ速カニ修理ナシ難キヲ以テ離礁ナシ難シ、依テ見捨テ当湾ヲ出港、第三地点ニ向フト通知アリ。

六月十一日 濃霧

午前、今度大将工昇進ニ付、御礼ノ旨侍從職幹事工熟奏ヲ乞フコトヲ電信ヲ發ス。午後、第一艇隊帰港。熊岳城附近威嚇砲撃ノ結果ヲ聞ク。又敵ノ駆逐艦坐礁ノ者引卸方着手シタルモ、破損大ナルヲ以テ其俣ニシ水雷三個十二斤一四十七ミル砲五門ヲ獲タルト云フ。又魯兵二名ヲ捕虜シ、之レハ蓋平ヨリ旅順ニ渡ル者清舟内ニ有リ。一名ハ下士官ナリ。第六戦隊ハ光祿島ノ東方ニ投錨ス。

六月十二日 霧

午前八時、第六戦隊入港。東郷司令官来艦、報告ヲ聞ク。出羽司令官来艦アリ。蓋平方面沿岸ノ威嚇砲撃ハ充分ナル功ヲ奏シタル者ト認ムルト云フ。午前七時、龍田引卸シ第三地点ノ碇泊場へ來り投錨ス。修理ノ上、佐世保エ回艦ノ見込ミナリ。午前九時、千歳、千代田監視ノ為出艦。午後七時、監視ヨリ浅間、笠置帰港。八代大佐来艦、報告ヲ聞ク。午后十一時、松村中佐大

連湾ヨリ帰港。彼ノ地ノ情報ヲ聞ク。舟渠ノ戸舟ハ水中ニ有ルヲ發見ス。其他汽舟大小四艘ヲ棧橋側ニ沈メ有ルト云フ。

六月十三日 晴

午前九時、艦載水雷艇ヲ以テ旅順口外ニ水雷沈置ノ為出張者集メ訓示スル所アリ。午前十時、当港ヲ出發ス。午前九時、三浦少将来艦。龍田引卸方ノ件報告アリ。充分佐世保へ回航修理ス可シ。当港ニ於テ出来得可キ事而已ニ着手シ回艦セシムト云フ。午后一時三十分ヨリ前進。防備隊ノ臨設砲台ヲ順視ス。午后六時三十分、台北丸ニ而水雷積入中、過而水雷発火シ少シク火災起ルモ暫時ニシテ沈火ス。死者十二名、負傷者七名アリ。全ク取^送リノ過失ナラン。事業セシ者皆死去ス。悲歎ノ至リニ不堪ナリ。第二軍追々得利寺方面ニ前進シタルコト落合參謀長ヨリ通知アリ。午前八時より大陸方面ニ屢々砲声ヲ聞ク。午后、海軍人事局長ヨリ辞令書到達ス。出羽中將及島村少將エ渡ス。

六月十四日 晴

午前九時、橋立ヨリ昨夜旅順口外水雷沈置ノ作業艦載水雷隊ハ満足ニ敵前ニ於テ予定ノ位置ニ沈置ヲナシ、唯今第三地点ニ向フ航行セリト電信アリ。午後四時、艦載水雷艇六隻帰港。敵ノ發見ヲ免カレ予定位置ニ水雷沈置ヲ成功シタルコトヲ報告ヲ聞ク。指揮官ハ山本大尉ナリ。午後小田少佐^佐田少佐ヲ病院舟ニ見舞フ。午前、帽島附近迄「ノールビック」号出テ來り。外ニ駆逐艦十隻。我カ第三駆逐隊外ニ水雷艇隊二隊ト砲撃スト云フ。我隊異情無シト三山島沖敵島ヨリ電信アリ。

六月十五日 濃霧

午前ヨリ濃霧深シ。午前十時、佐世保鎮守府司令長官ヨリ平戸無線電信台ヨリ報知ニ沖ノ島近海ヲ浦塩艦隊三隻南下スルト通知アリ。亦同時ニ第二艦隊司令長官ヨリ対馬ヨリ沖ノ島近海ニ三本橋敵艦三隻見ルト報知アリ。直ニ出港スト通報アリ。又午後三時、軍令部次長ヨリ沖ノ島附近ニ敵艦隊見ユルト通知アリ。此ノ方面ニテモ旅順口ノ敵脱出ヲ慮アリ。一隊ヲ増加ス。都合駆逐隊三、水雷艇一ヲ旅順方面ニ警戒ノ為ニ出ス。午後、竹敷司令官ヨリ神崎ヲ第二艦隊通過セリ、其ノ後情報不詳、午前十時比ヨリ大雨ニテ十里余ヲ離テハ見分チ難キ、敵艦ハ壹岐島東方ヲ東ニ向航セリト云フ。第二艦隊ハ之レヲ追撃スルナラン。高千穂、新高、千早ハ海峡ヲ哨戒シツ、有リト云フ。午後二時、沖ノ島附近ニ於テ陸軍兵乗組ノ輸送舟舟ヲ三隻撃沈シタルコトヲ、福岡県知事ヨリ報知アリタルコトヲ軍令部次長ヨリ通知アリ。兵員ハ二五〇〇人、馬四〇〇頭ヲ載セタル舟ナリト云フ。

○上部欄外〔笠置、高砂、第二、四駆隊、第九艇隊監視ニ出張〕〔得利寺占領〕

六月十六日 晴

午前九時、第六艦隊ハ「アラムス」灣へ敵ノ駆逐艦引卸シ方ノ掩護ノ為出港ノ予定ノ所、旅順港口封鎖厳格ニスル為メ一時之レヲ見合ス。浦塩艦隊ノ行動不明。又之レニ乘シ旅順ノ敵行動ヲ起ス乎モ計ラレザル故ナリ。午后、軍令部ヨリ通報ニ浦塩艦隊ハ隱岐ノ北海ニ見ヘタリト云フ。上村艦隊ハ行違タルヲ推察ス。多分直ニ浦塩方面ニ追行シタルト思フ。今明日ニハ発見スルコトヲ信ス。竹敷要港部及佐世保、福岡県知事ノ情報ニ依レハ、敵ハ北航セルト察シラル、午前十時、第二軍參謀長ノ情

報ニ昨夕得利寺ヲ占領シタルト云フ。我兵負傷凡一千以内ナラン。敵ハ同数以上ナラン。捕虜三百余。敵ノ師团长負傷シタルト云フ。聯隊長死シタルト。又聯隊旗ヲ分補ル。砲十四門モ同シ。実ニ勇戦快捷ナリ。午后、千歳、千代田哨戒ヨリ帰港。兩艦長來艦、情報ヲ聞ク。

六月十七日 雨降 雨晴計甚下ル 29、67

午前、竹敷要港司令官ヨリ北東ニ當リ六、七発ノ砲声アリ。四十里以上ナラント通報アリ。又軍令部次長ヨリ隱岐及角島望樓ヨリモ遙カニ砲声ヲ聞クト云フ。第二艦隊ハ元山方面ニ追進タレトモ敵ヲ不見残念ト云フ。伝信ヲ元山ヨリ達ス。之レヨリ直ニ竹敷工帰港トアリ。敵ノ隱岐方面ニ至ルヲ見當ラ違ヘタリ。残念ノコトナリ。午后、第一、四駆逐隊監視ヨリ帰港。長井司令ヨリ報告ニ四個ノ機械水雷ヲ破壊シ、又連続シタル水雷打チ沈メタルコトヲ報告ス。又清国舟ヲ捕獲シ来リ。主ニ糧食ヲ積ミタル者ナリ。直ニ取調ニ懸ル。他ニ異情無シト云フ。三笠乗員昨夜一時比一人落水シ、直ニ端舟ヲ卸シ索繫シタル発見スルコトヲ得ス。残念ナリ。原因ハ不明ナルモ多分発狂ナル可シト云フ。

六月十八日 晴

午前九時、竹敷要港司令官ヨリ報知ニ、昨日ノ砲声ハ下ノ関砲台ノ射撃ナルコトヲ聞ケリ。又十五艇隊ノ佐渡丸乗員ヲ救助シタルコトヲ聞ク。午前十時、軍令部長ヨリ電報ニ敵艦三隻白神崎望樓ヨリ小島沖ヲ運動シアリト云フ（比ノ小島ハ松前海峽西ニアル島）。午後二時、ダルニー背後ニ「イーブルビク、キリヤーク」及駆逐艦六隻來襲シタルコト、亦直ニ橋立、鎮遠之レニ向ヒ進

行シタルニ退却シタル報告ヲ聞ク。午後、黒井中佐ヨリ陸戦隊上陸場迄引揚ケタルコト報告アリ。陸戦隊ハ是レヨリ旅順背面攻撃ニ重砲隊ヲ編制シ陸軍ト共ニ攻撃スル予定ナリ。

六月十九日 曇

午前八時三十分、旅順口監視ノ為第六戦隊出港。笠置ト千代田ト交代ス可シ。午後七時、帰港。笠置艦長來艦、報告ヲ聞ク。昨日、午后、ダルニー背面ヨリ敵ノ砲撃ハ少数ノ砲声ヲ聞ク。帽島沖ニ至リシトキハ敵ハ退却シ見ヘス。「ブルヴァーク」「ギリヤーク」外ニ砲艦一隻ト云フ。ラルニーノ情況ヲ聞クニ、格別ノ損害少シト云フ。午後、第二艦隊司令長官ヨリ敵艦玄海ニ迫リシ情況ヲ聞ク。全ク見当ヲ違ヘ居ルナラン。午後、竹敷ヘ着スルト云ス。午後、十五艇隊ヲ第二艦隊ヘ属セシム。第三地点ヲ発シ竹敷ヘ向航ス。

六月廿日 晴 西風強シ

午前、敵高艦長成田大佐待命代リニ丹羽大佐、其ノ代リニ浅井大佐、代リハ藤本中佐、代リニ江口憐六軒職セリ。午前、和泉丸玄海ニ於テ敵艦ニ撃沈サレシコトヲ聞ク。捕虜ニナリタル者百十名余有ルト云フ。此ノ報ハ隱岐ニ於テ帆前舟工陸軍兵一、海軍兵一移サレタル者ノアリ。舞鶴要塞司令官ヨリ報告ニアルト云フ。

六月廿一日 晴

午前九時、八雲、千歳監視ノ為出港。第六戦隊ト交代ス。午前八時、扶桑入港。八重山出港。大連湾口哨戒ニ向フ。午前十時、艦載水雷艇ヲ以テ旅順口外ニ水雷沈置ノ為出港。又十一時、仮装砲

艦ニ、水雷沈置ノ為出港ス。午前七時、第六戦隊監視ヨリ帰港。東郷司令官來艦、報告ヲ聞ク。又陸軍運送舟ヲ熊岳城海岸工廻シ、陸軍援護ノ件ヲ第六戦隊ヘ内示ス。來ル廿四日午前、出港ノ予定ナリ。

六月廿二日 晴

昨夜、仮装砲艦ニ隻旅順口外ニ水雷沈置作業予定ノ如ク成シタル事ヲ八雲ヨリ午前八時電信アリ。砲撃ヲ受ケタルモノノ損所ナシト云フ。艦載水雷艇ハ風波ノ為メ大連湾工避ケタルト云フ。今夜実行スヘシ。

午前十一時、仮装砲艦三号、四号旅順口外ニ水雷沈置ノ為出港。午后二時、昨夜水雷沈置ノ為メ作業シタル一号、二号砲艦異情無ク帰港ス。

第二軍參謀長ヨリ本田熊岳城占領ノ報知ヲ聞ク。又彼ノ地工糧食運送舟差廻シ度ノ件、又掩護ノ事ヲ承諾ス。

○ 六月廿三日

午前八時三十分、監視艦八雲ヨリ敵艦隊追ケ港外ニ出動スル電信ヲ受ク。直ニ総艦隊ニ至急点火ヲ命ス。用意齊ヒ次第出港。遇岩近キニ在ツテ命ヲ待ツ可シ。水雷艇隊、駆逐艦隊暫時出港。第六艦隊、第一艦隊ハ午前十時出港。田島エ向航。第三、五戦隊ハ監視ノ為メ出動シ居レル。田島附近ニ至ルト敵艦南航スルト電信アルヲ以テ直ニ遇岩ニ向フ。総艦隊集合シテ敵艦ニ向フ。午后三時三十分ナリ。敵艦ハ未タ港口ニアリ。敵ノ艦隊ハ掃海ヲ行ヒツ、ノルビツク、レットウキザン、ツレサレウキツチ、ポルターワ、ペレスウキツト、ポタビエタ、シハステホル、

「バヤン」(バヤン)、^{「チャイナ」}、^{「バルラダ」}、^{「アスコリッド」}ノ拾隻。駆逐艦七隻、水雷艇若干隻ナリ。老鉄山側下ヲ通過スルヲ見ル。午后六時三十分、遙カニ見ユル我カ艦隊ハ東西ニ向フ。七時三十分、戦闘旗ヲ揚ク。敵ノ正面ヲ斜メニ前方ヲ遮キル為メ進行ス。夜ニ至ラハ駆逐隊、水雷艇隊ヲ突撃激沈可シノ命令ヲナス。日没ニ及ビ敵ハ港内ニ向フ。此ノ時、一万五千米トルノ巨艦ナリ。砲撃内ニ入ラスシテ彼レハ退却ス。我レハ東方ニ向フ。艦隊ハ警戒点ニ位置ヲ取ル。翌朝ノ集合点ヲ円島ノ沖五里ノ位置ニ定ム。午后九時比ヨリ駆逐艦水雷艇隊ハ攻撃ヲ始ム。砲撃盛リ。夜明ル比まで突撃ヲナシツ、アリ。攻撃ニ従事シタル駆逐艦ハ第一、三、四、五ナリ。水雷艇隊ハ第一、十四、十六、廿、十二ノ53号ナリ。駆逐隊第二、水雷艇隊十二ハ攻撃ヲナサス。又第十、二、二十一、六水雷艇隊モ加ハラスト云フ。

六月廿四日 曇

午前七時、円島沖に集合ス。駆逐隊水雷艇隊各集合ス。昨夜、襲撃ノ結果ノ報告アリ。小林少佐ノ報スル処ニ一艦ハ爆発ノ有様ヲ見ル。慥ニ激沈セシト信ス。土屋司令ノ報スル処ニ敵ニ多大ノ損害ヲ与ヘタルヲ認ム。水雷艇隊ハ六艇隊突撃セシト云フ。駆逐隊ハ三隊突進スト云フ。多大ノ損害ハ疑ハスト信ス。又長井中佐ノ報スル処ニ依レハ午前九時マテハ港口沖近キニ監視シタルニ、敵ノ二隻ハ引舟ヲ以テ港内ニ入り、一ツハ戦艦、一ツハ巡洋艦タルヲ認ムト云フ。他ハ追々港内ニ入ルヲ聞ク。午后二時、八重山ヨリ総艦入港スル報告アリ。干時浅間ヨリノ報ニ敵艦一隻滿頭山ノ下ニ坐砂セルト認ム。二本橋ニシテ三本煙突ナリ。艦長橋樓ニ登リ自ラ之レヲ望視スト云フ報告アリ。察スルニ三隻ニ正ニ損害ヲ与ヘタルコトヲ信ス。午后四時、円島ヨ

リ第三地点ニ向フ。警戒ハ浅間、千代田ヲ残シ、又駆逐隊ヲ第二、五隊ヲ残シ水雷艇隊ハ三隊ヲ残シ厳格ニ警戒セシム。

六月廿五日

午前九時、浅間ノ報告ニ敵艦ハ港内ニアリ。小艦ヲ以テ港外ノ掃海ヲ行フ者ノ如ク、砲艦二、駆逐艦六隻ヲ港外ニ見ル。他ハ港内ニアリ。午前、大本営ニ昨日ヨリノ戦況ヲ報告ス。敵ノ動勢他ニ異情無シ。午前、第三軍司令官ヨリ明日、双頭山迄進軍セシムルニ依リ海上掩護希望ノ件申来リ。依テ仮装砲艦三隻敵島、八重山ヲ掩護セシム。午後、艦載水雷艇隊八隻、機械水雷沈設ノ為第三地点ヲ出發シ進行セシム。

六月廿六日

午前十一時、敵島ヨリ報告ニ第十一師団ノ前進ハ彌山迄テ進行シ予定ノ位置ヲ占領スト云フ。午後二時、浅間ヨリ敵ノ砲艦ノルビツク外ニ小艦ト駆逐艦港外ニ出テ鮮生角外ニ至リ陸軍ヲ砲撃中。其他港口水道ニ戦艦一隻ヲ見ル。又港内ニテ格段ノ黒煙ノ揚ルヲ見ル。案スルニ敵艦隊ノ脱出ヲ警戒ノ為、総艦隊ヲ第三地点ヲ発シ、円島附近ニ於テ哨戒スルヲ要スルニ依リ、午後三時、出艦ス。円島ニ向フ。夜ニ入ツテ警戒行動ヲ取ル。明朝、円島沖ニ集合スルコトヲ令ス。

六月廿七日

午前八時、円島沖ニ集合ス。八重山、千代田ヲ旅順沖ヲ監視セシム。又第六戦隊ヲ以テ監視セシム。本隊ハ円島ノ南方沖ニ在リ。午后、千代田ノ報告ニ敵ノ艦隊ハ港内ニ在リ。ノルビツク外ニ砲艦一、駆逐艦八隻港外ニ有リ。鮮生角沖ニ出動シ有ル我

駆逐艦隊ハ合シテ敵ト交戦ヲナシツ、有リト云フ。又今夜、水雷艇21艇隊ヲ港外坐礁ノ敵艦ヲ襲撃スル為メ出動セシム可シ。又昨夜、機械水雷ヲ沈置ノ為メ進行シタル仮装砲艦一艦ハ敵ノ攻撃ヲ受ケタレトモ、予定ノ位置ニ沈置シタルト云フ。他ノ一艦ハ敵ノ駆逐艦ニ襲撃サレ、四十分余ノ交戦ヲナシタル後チ彼レハ退却セリト云フ。後チ二鮮生角湾内ニ水雷ヲ沈置セシト云フ。二隻共ニ損害ナシ。午後、第三地点ニ帰港ス。午後、本隊ハ長子島北方ニ仮泊ス。五十一号水雷艇濃霧ノ為大連湾外險礁工場ケ破壊シタルコトヲ報告アリ。

六月廿八日

午前、早朝ヨリ濃霧甚シ。艦側ヲ見ルコト能ハス。昨夜、八重山艦長、午后六時迄旅順口外及帽島附近ニ於テ監視ノ報告ヲ受ク、満頭山下ノ敵艦ハ確實ト云ヒ難シ、坐礁シタル者ト云フ者無シト報告アリ。午後、須磨ヨリ電報ニ昨夜、港外ニ碇泊セル敵艦ヲ襲撃セリト云フ。大艦ハ皆港内ニ入ルト思フ。小艦一隻港外ニアリ。之レヲ攻撃シタルモ奏功ノ結果分ラス。敵ヨリ熾ンニ砲火ヲ受クト云フ。負傷者二名アリ（水雷艇隊司令田中少佐）ナリ。

左之勅語ヲ賜フ。六月二十六日、

聯合艦隊ハ百難ヲ排シテ敵ノ艦隊ヲ制圧シ、我陸軍ヲ敵地ニ上陸セシメ確實ナル根柢ヲ作成シ、更ニ敵ノ艦隊ヲ旅順港外ニ撃チ、其ノ數隻ヲ破リ偉功ヲ奏セリ。
朕深ク將校下士卒ノ勤勞勇武ヲ嘉賞ス。汝等益々奮勵シテ前途ノ大成ヲ期セヨ。

六月廿九日

午前、早朝霧少シク明ル。八雲、高砂監視ノ為メ出動セシム。昨日、英艦隊威海衛ニ着シタルコト通知アリ。独乙艦隊モ出港セシト云フ。午后、八雲ヨリ電信ニ有栖川宮殿下海軍大將二任セラレタル旨通知アリ。依テ聯合司令長官ノ名ヲ以テ電ヲ出シ置キタリト通告アリ。本日ハ終日濃霧ニテ四方不見得。夕刻、暫時晴レタレトモ、又濃霧ヲ起ス。午後、小平頂ノ部分へ仮設置樓ヲ置クコトヲ陸戦隊ニ命ス。又同所内迄砲艦ノ通航安全、海路ヲ開クコトヲ海門砲艦四艘ヲ之レニ当ツルコトヲ命ス。

六月卅日 濃霧 午后少シ晴

本日、濃霧甚シ。午前十一時、八雲ヨリ電信ヲ継ク。軍令部次長ヨリ通信ニ元山沖ニ敵ノ水雷艇八隻見ユルト云フ。午後二時、第二艦隊司令長官ヨリ本艦隊ハ鬱陵島エ向キ敵ヲ探見セントス。之レヨリ竹敷ヲ出艦スト云フ。午後、霧少シク晴ル。午後、八雲ノ電信ニ依レハ撃沈シタル敵艦ハ「ベレスウツト」ナリト云フコトヲ芝罘通信ニアリト云フ。快ナル哉。

七月一日 金曜日

午後ニ至リ天候晴ル。哨艦ノ報告ニ港外ニ掃海ヲナス者ノ如シ。「ハルビック」外ニ二隻駆逐艦數隻作業シツ、在リ。哨艦駆逐艦ハ近接シテ敵ヲ砲撃セシニ、直ニ港内ニ入込ミタリト云フ。午后ニ至リ異情無キヲ淺間ヨリ報告アリ。又三本煙突、二本橋ヂ、エナ形一隻港外ニ在リ。二十七日夜、十二艇隊攻撃シタル者ト同物ナランカノ疑ヲ起ス。確カナラス。午後五時、長子島ヨリ第三地点ニ入ル。午後九時三十分、竹敷佐保司令長官ヨリ敵ノ艦隊壹岐島ト對馬ノ中間ヲ南西ニ向フト通信アリ。又直ニ壹岐島北西ニ於テ出雲形外三隻西ニ向フ。続テ砲声熾ナリ。交戦中ナリ

ト云フ。午後七時ナリ。八時比迄ハ追撃セシナラン。
次キノ報告ニ敵ハ北東ニ向航セリト有リ。荐ニ浪速ニ水雷艇ヲ
送レノ電信アルト云フ報知アリ。

七月二日

午後八時二出雲形外三隻神崎沖ニ見ユルト竹敷ヨリ信報アリ。
此ノ報ニ拠レハ、昨夜敵ヲ失シタル者ト推察セラル。昨夜ノ
砲戦何タルノ程度ニ至タル。午後、報ヲ待ツコト遠シ。午前十
時、今朝哨艦ヨリ旅順口外ハ他ニ異情無キヲ浅間ヨリ報知アリ。
六月二十三日攻撃ニ付、去ル二十七日、左ノ通御令詞ヲ賜フ。

聯合艦隊ハ用意周到ニシテ陸軍ヲ枢要ノ敵地ニ上陸セシメ、
又旅順口ニ於テ大ニ敵艦ヲ撃破シタル趣、皇后陛下ノ御懿問
ニ達シ、我將校下士卒ノ忠勇能ク其功ヲ奏スルヲ深ク御感賞
アラセラル。

午后、竹敷司令官ヨリ報知ニ、昨夜九時三十分比まで水雷艇二
隊沖ノ島近海ニ於テ敵艦ヲ追襲シタレトモ所在ヲ失シタリト云
フ。本日午前九時、三浦湾ニ帰港シ報告スル所ナリ。第二戦隊
ハ神崎沖ニ有ルモ空気電気ニ妨ケラレ通信確実ナラス。我第二
艦隊ハ昨夕敵艦隊ヲ追跡セシモ、踪跡ヲ失シタル者ノ如シ。夜
中、対馬海峡ヲ警戒セシト云フ。午后、艦載水雷艇ヲ旅順口外
ニ在ルボヒエタ形ヲ轟沈ノ為四隻ヲ進攻セシム。

七月三日 日曜 晴

午前、艦載水雷艇四艘ヲ敵艦襲撃セシモ、哨艦浅間ヨリ港口ノ
敵艦港内ニ入ルト報告アリ。午后、ノルビク外ニ駆逐艦六隻鮮

生角北方ニ来リ、陸軍ノ左翼ヲ砲撃セルコト報知アリ。

七月四日 濃霧アリ

午前九時三十分、笠置ヨリ唯今英国軍艦ク長駆逐艦ニテ来艦。
長官ニ英国艦隊司令長官ヨリ急使ヲ持チ直ニ碇泊場工差越度ニ
付、故障無キヤヲ電信アリ。第三地点ニ来ルヘシト答フ。午後三
時、第三地点港口迄来リ、本日、芝罘迄帰港ニ時間ナキ故、英將
ノール氏ノ書状ヲ教導水雷艇ニ渡シ引返し、明日再ヒ来港ス可
シト云フ。此ノ書状ハ差障無キ限り駆逐艦一隻ヲ旅順攻撃ノト
キ戦状ヲ視察ノ為差出スコトヲ許可有リ度シトノコトナリ。依
テ昼間ニ近寄ル事ハ差支無シ、夜間ト濃霧ノ節ハ危険ナル、以
テ御注意アリタシト答フ事ニ決ス。午後三時、日本九ヨリ敵艦
隊出港ノ報アリ。直ニ全艦隊ニ点火ヲ命ス。次キノ報知ヲ待ツ
コトニシ、浅間ノ報告ニノルビクト駆逐艦出港。鮮生角附近ニ
アリト云フ。此レハ駆逐艦ノ報ニ依レリト云フ。案スルニ日本
丸ノ報知ヲ疑フ。浅間ノ報知ヲ信シテ出港ヲ止ム。全ク艦隊出
動ノコトナシ。

七月五日 濃霧

午後十一時、英艦長来港ノ筈ナルモ来ラス。午前八時、海門ハ
三山島南方二里ノ所ニテ、昨日水雷ニ触レ沈没シタルト云フ伝
信アリ。要細ヲ得ス。後トニ報告ニ依レハ全ク濃霧ノ為メ潮流
ニ針路ヲ三山島南西ノ内海ニ至リ、敵ノ水雷布設位置ニ至リシ
故ナリ。艦長高橋中佐ヲ失フ。死傷者少ラス。

七月六日

午前十一時、英艦アンドロメダ艦長 R. Nelson Ommanney 氏来

艦。英司令官へノ答事ヲ渡ス。午后一時、出艦ス。午後三時、日本丸ヨリ敵艦七隻出港ト信電アリ。依テ直ニ出港ヲ命ス。総艦隊出動ス。又八雲ヨリ同シ通信アリ。午后六時ノ報告ニ敵艦ハ出港ノ模様ナシトノ報知アリ。然レトモ本艦隊ハ山東角沖ニ明朝待ツテ、虚実ヲ確明スルコトヲ決ス。彼ノ方面ニ航行ス。

七月七日 午后四時ヨリ濃霧甚シ

早朝、山東角ニ於テ濃霧ニ合フ。午前五時、針路ヲ八点ツ、二度ニ折リ円島ニ向フ。敵ノ形状ヲ見ス。八雲ヨリ午前九時ノ報告ニアスコリット港外ニ碇泊シアリト云フ。又陸地ノ背面ノ方ニ盛ナル砲声聞ユルト報知アリ。双台溝方面ヨリ敵攻撃ヲ前進スルナラン。戦状能ク分カラス。又午后二時、日本丸ヨリノ報告ニ商舟二隻港口外ニ碇泊シアリト云フ。午后五時三十分、艦隊ハ濃霧ノ為長子島西方沖ニ投錨ス、第三戦隊も比ノ附近ニ投錨スト云フ。

午后八時、松島ヨリノ報告ニ敵艦ハ掃海艇ト共ニ引揚ケタリ、「アスコリット」一隻外ニ二港外ニアリ、敵ノ掃海ハ南航路ヲ開キツ、アル者ノ如シ報知アリ。

七月八日 曇 霧晴ル

午前七時、浅間、千代田第三地点ニ入港スルヲ見ル。一昨六日夜、艦載水雷艇ヲ以テ萱沼大尉ノ率ヒタル隊ハ、予定位置ニ水雷ヲ沈置シタル報告ヲ午前八時長子島沖ニ於テ得ル。午后、山県參謀総長工答詞ヲ出ス。又大本営ニ去ル六日午後、敵艦隊出港ノ報ヲ接シタルヲ以テ出動ノ情報ヲナス。敵ハ「アスコリット」外小艦四隻、外二艦隊ノ出港ヲ見サルコトノ報告アリ。午后七時、司令官以下、各艦長集合シ諸報告ヲ聞ク。

七月九日 晴

午前九時、日本丸ヨリ戦艦一隻、巡洋艦四隻、駆逐艦十一隻港外ニ出ル、鮮生角内部ニ有リ。直ニ総艦エ点火ヲ命ス。哨艦松島ヨリ敵艦四隻、駆逐艦數隻港外ニ出ツノ報告ヲ得ル。第三戦隊エ出港ヲ命ス。本隊ハ次キノ情報ヲ待ツテ出港ノ事ニ決ス。午后一時、日本丸ヨリ敵ハ我艦ト交戦シ、彼レハ我陸軍ニ向ヒ砲撃シツ、アリ、又敵島、松島ト交戦シツ、アリト報知アリ。午後四時、敵島ヨリ敵ハ鮮生角内部エ向フ。午後五時、明石ヨリ敵ハ旅順港口方面ニ退却、港内ニ入ル者ノ如シト云フ。汽鐘埋火ニス。午後五時三十分、松島ヨリ是レヨリ第三地点ニ向フ報アリ。八雲、千代田ハ第六戦隊ニ交代シ帰港ノ事ヲ命ス。又朝潮ニ交戦中負傷アリ。水雷艇ニ乗セ第三地点ニ帰スト報アリ。午後、橋立艦長來艦。午前、敵島、橋立、第四駆逐隊交戦ノ報告ヲ聞ク。敵ハ鮮生角北東方湾内ニ在リテ、彼ノ陸軍ノ応援ノ為砲撃ヲナス。我艦隊ハ砲撃ヲナシタルモ、バヤン外ニ砲艦ヨリ応砲スルノミ。シバアステポール、ヂアナ、バルラタ等ハ砲撃ヲ為サスト云フ。

七月十日 晴

午前八時、敵島ヨリ仮装砲艦四隻予定位置水雷沈置ヲ終ルト云フ。敵ノ猛撃ヲナセシモ皆無事。艦載水雷艇ハ遙カニ見ル三隻ナリト云フ。午前九時、第六戦隊区ヨリ帰港ス。午后、艦載水雷艇四及仮装砲艦二昨夜旅順口外ニ水雷沈置ヲ予定ノ如ク実行シ終リ帰港ス。又明日沈置ノ為艦載水雷艇ヲ四隻進行セシム。午後八時、八重山ノ報告ニ敵艦ハ港口ニアリ。バルラタ、ヂアナノ如シ。他ハ港内ニ入ル。

七月十一日 晴 内服ヲ用ユ

午前八時、浅間ヨリ昨夜敵ハ港外ニ機械水雷ヲ沈置セシ者ノ如シト思フハル、ト報告アリ。全時二十艇隊哨艇ニ出ル。午后九時、八重山ヨリノルビク及駆逐艦六隻出港。端舟數隻ヲ列レ掃海ニ着手スルカ如シ。満頭山下ノ海岸ヲ遊弋シツ、アリ。又クレミヤシチー形出港シテ颯ヲ四個ヲ連続シテ揚ケツ、アリ。之レハ鮮生角沖ニ在リ。此ノ意何ノ目的ヲ以テ成スコトヲ不解。他ハ異情ナシ(後日、此ノ颯ノ必要ハ深海ノ見頭ヲ以テ水雷ヲ發見スルコト要スレハナリ)。午后七時、藤本司令、若林司令來艦。哨艦中ノ敵状ヲ聞ク。昨日、内田少佐ノ隊ヲ襲撃セシメタル事ヲ内田司令ヨリ聞クニ、艇ヲ以テ發射シ他ノ艇ハ敵艦ヲ見当ラス帰り來ルト云フ。損害ナシ。成功ノ結果ハ明カナラス。其ノ時敵ノ猛撃ヲ受ケタルト云フ。

七月十二日 晴

午前九時、浅間ヨリ報告ニ旅順口外満頭山下ニ於テ小蒸気舟數隻ヲ以テ掃海スル者ノ如シ。港口ニハチアナ形一隻碇泊ス。他ハ異動ナシ。午前十時卅分、日本丸ヨリ報告ニ掃海中ノ汽舟一隻爆発ノ為メ舟形ヲ失フト報告アリ。午前八時、八雲、高砂哨艦ノ為出艦。浅間、笠置、千歳ニ交代ス。昨夜、艦載水雷艇四隻、水雷沈置ヲ為シ敵ノ砲火ヲ受ケタルモ死傷無シ。無事小島ニ帰途中ト八重山ヨリ報告アリ。午后一時、又艦載水雷艇二隻、水雷沈置ノ為メ進行ス。三笠、富士ノ者ナリ。本日、東伏見宮御帰途塩太塙ニ仮泊被為在ル。午后九時、当地出發セラレ。午後六時、駆逐隊水雷艇長以上ヲ集メ訓示ヲ為ス。終リテ食會ヲナス。

午後八時、浅間、千歳帰港。哨艦中ノ報告ヲ浅間艦長ヨリ聞ク。他ニ異状ナシ。

七月十三日 晴

午前八時、八雲ヨリ小艦數隻満頭山下ニアリ。掃海ヲナス者ノ如ク、他ニハ異情ヲ見ズ。午前九時、白翎島沖ニ於テ吾妻ヨリ報告ニ、午前五時、満州軍司令官一行通過セラル。明石、須磨ニ護衛ヲ次キタリ。異状無シノ報告アリ。東伏見見宮殿下ノ御乗舟ニ會合スト云フ報告アリ。午後四時、安芸丸入港。直ニ満州軍總司令官ヲ見舞フ。梨本宮殿下ヲ伺候ス。午後五時三十分、大山滿軍總司令官及兒玉總參謀長答礼ノ為來艦アリ。明日午前五時三十分、出港。大連灣へ向カハル、ト云フ。午後七時、扶桑司令官來艦。明日、安芸丸護衛ノコトヲ訓示ス。本日、敵ノ情況ハ數隻ノ小汽舟ヲ用ヒ掃海ニ從事シ有ル者ノ如シノ報アリ。又八雲ヨリ敵ノ主力ハ出港ノ模様ナシ。

七月十四日 曇

午前五時三十分、安芸丸出港。扶桑ヲ以テ護衛ス。午后一時三十分、大連灣投錨スト云フ。細谷司令官ヨリ報告アリ。午前九時、八雲ヨリ報告ニ「ヂヤナ」形一隻港外ニアリ、掃海艇數隻ト砲艦二隻、駆逐艦三隻出港。掃海ヲ為シツ、アルト云フ。又午前十時、敵ノ砲艦我カ陸軍ノ左翼ヲ砲撃ヲナシツ、アリト云フ。右ノ艦ナリ。午后二時、報告ニ富士艦載水雷艇、昨夜颯ノ砲撃ヲ受ケテ一名負傷ヲ出ス。掃艦セリ。第二駆逐隊司令ノ報告ニ昨日午后、敵ノ駆逐艦三隻ヲ老鉄山下ニ於テ追撃セシ直ニ旅順港ニ入ル。互ニ砲戦ヲ交エタリ。其ノ砲煙ヲ見ルニ、有煙

火薬ヲ用ユル者ナリ。無煙火薬ノ欠亡ト思フ報告アリ。
昨日、千代田哨区ニ於テ清舟ヲ臨檢セシニ「ギリシヤ」人二名
在リ。捕獲シ之レヲ旅順港ニ渡海ノ途中ナリ。疑フニ魯人ナラ
ン。依テ佐世保工送ルコトニス。唯今取調中ナリ。

七月十五日 霧

午前八時、哨艦ノ日光丸ヨリ報ニ英国国旗ヲ揚タル商舟宮ロニ
向フ。戰事禁制品ヲ積ミ疑敷点在ルヲ以テ佐世保エ護送シタル
ト云フ。午後一時、哨艦ノ報ニ砲艦二隻、掃海艇ノ如キ者六隻
港外ニ在リ。又駆逐艦三隻出港。ローリツシ^{ロウリツシ}東方ニ在ルト云フ。
又戰艦港口ニ碇泊シ居ルヲ見ル。港内ニ爆煙ヲ見ル。依テ出港
ノ慮リアリ。総艦ニ点火ヲ命ス。

七月十六日 曇

午前八時、哨艦ヨリバアヤン^{バアヤン}一、砲艦二隻、掃海艇ノ如キ者
ヲ六隻港口外ニ在リ。城頭山下ニ遊弋シ在リ。又鮮生角東方ニ
駆逐艦三隻在ルト云フ。午后一時、バアケハン氏ヲ招待シ昼食
ヲ共ニセリ。午後、財部中佐來艦。満州丸乗込ノ外国士官及新
聞記者等慰問ノ為、明日長子島ニ於テ見舞ヲ受ク可キ事ヲ答フ。
午後六時、駆逐艦水雷艇司令艦長ヲ集メ訓示ヲナス。

七月十七日 曇 電信不通

午前八時、聞クニ本國エノ電信不通トナリ、白翎島ト長山列島
間ニ損所起リシ者ト感定有リト増田中佐ノ推定ナリ。午后八時、
小平島ヨリ報ニ駆逐艦三隻鮮生角東方ヨリ旅順口エ入港セント
云フ。他ハ異状無シ。又掃海艇ハ前日ニ全シ、午后、長山列島
ヨリ大連灣線モ電線不通トナリ、列島ノ近海ニテ切斷ノケ所ヲ

発見ス。午前十時、長子島工廻航シ満州丸ニ会合ノ為ナリ。午
后二時三十分、華族會館慰問使子爵曾我祐準、衆議院ヨリ田口
卯吉外ニ四人、其ノ他外国公使館附武官、英仏独伊スベアイン
各將校并新聞記者内外人總テ六十余名來艦セリ。午后四時、滿
州丸長子島沖ヲ拔錨シ掃路ニ至ル。艦隊ハ午后五時、第三地点
ニ至ル。午後六時、哨艦ヨリノ報告ニ敵ノ掃海艇ハ旅順口内ニ
入ルト云フ。午後、香港丸ヨリ宮口ニ航スル汽舟英國ニ属スル
者糧食等ヲ積載禁制品輸送スルニ付、捕獲シ士官及下士以下ヲ
乗組セ佐世保エ護送セシムト報告アリ。

七月十八日 曇 電信不通

午前八時、扶桑ヨリ報告ニ昨夜、駆逐艦五隻鮮生角東岸ニ有リ
ト云フ。
二三日、長山列島ノ電信線不通。本日ノ哨艦ヲ第七戰隊ハ淺間、
笠置ト交代ス。他ニ異情無キコトヲ報ス。午後七時、東郷司令
官來艦。哨艦中ノ情況ヲ聞クニ、清舟ヲ臨檢セシニ清人ノ問フ
ニ、三日後宮口ヨリ出港ノ英舟ヲ鳩灣沖ニ於テ魯驅逐艦ハ擊沈
シ人ハ僅少助ケラレタル事ヲ云フ。虚実分ラス。

七月十九日 曇 午后雨降

午前六時ノ扶桑報告ニ旅順口方面濃霧ノ為メ明カナラス。第二
駆逐隊司令ノ報ニ港外ニ敵無シ、港口ニバヤン^{バヤン}形ヲ見ル。哨
艦ノ水雷艇隊ハ風濤ノ為哨艦ハ甚困難ナリ、濤靜カナル迄大孤
山灣エ避ケル事ヲ艇長ヨリ申述タリ。報告スト云フ。午後、日
本丸入港。西平丸捕獲舟ハ山海関エ至ルト信号シタレトモ、臨
檢ノ結果、宮口エ送ルノ積荷ノ送り状ヲ発見シ、正ニ敵地ニ輸
送ノ現情アルヲ以テ捕獲シタルコトヲ艦長ヨリ報告アリ。

七月廿日 雨降

午前八時、軍令部長ヨリ電信線修理舟ハ廿八日比ニ送ルト通信アリ。又独乙人上海宮口ニ向キ、昨夜出港シタル者ハ敵ニ対シ用事ヲ保ツカ如シト通信アリ。午前九時、軍令部長ヨリ報知ニ浦塩艦三隻津軽海峡ヲ東ニ通過シタル報告白翎島^(白翎島)経統艦八重山ヨリ電信アリ。尻失^(尻失)崎沖霧中ニカクレタリト云フ。午後四時、哨艦ハ旅順港口方面ノ監視甚タ困難ナリ、波濤高キ為メニ山崗灣ニ避クト云フ。浅間、千歳ハ山東角沖ニ於テ監視シタシト云フ。之レヲ許ス。午後、電信布設^(電信布設)ノ沖繩丸ハ明日当地ニ着スル通知アルヲ得タリ。午後、英国公使館附海軍大佐 Hutton 氏軍事視察ノ為許サレタル者来訪ス。浅間ニ乗組ムコトニシ唯今浅間哨艦ニ有リ、以テ朝日ニ乗ルコトニ致タセリ。午後、敵島ヨリ哨艦ヨリノ帰途、天候ノ為光緑^(光緑)島沖ニ仮泊スト云フ報アリ。

七月廿一日 濃霧 午后七時晴ル

早朝ヨリ濃霧ニシテ四方ヲ弁セズ。午後五時三十分比ヨリ少シク晴ル。午后三時、艦載水雷艇八隻ヲ旅順口外ニ水雷沈置ノ為進行ス。午前、電報ヲ以テ浦塩敵艦隊津軽海峡尻矢崎沖ヲ游弋セルコト報告アリ。午后、八雲、千歳、高砂哨艦^(高砂哨艦)ノ為出港。浅間、三笠ニ交代ス。午後、第二駆逐隊司令ノ報告ニ、午後三時、旅順港口ヲ偵察シタルニ港口ニバヤーン^(バヤーン)、港内ニアスコリツト^(アスコリツト)、ツレサレウ井^(ツレサレウ井)チ^(チ)其他ノ数隻ヲ見ル。港外ニハ汽舟無シト云フ。

七月廿二日 霧 時々晴ル

午前十時、鎮遠ヨリ昨夜水雷沈置ノ艦載水雷艇四艘帰港シツ、アリ。

午前十一時、扶桑ヨリ荐リニ小平島ヲ砲撃スト云フ。其他通信ナシ。午前、第二軍參謀長ヨリ本日、大石橋附近迄進軍ノ予定ニ有之候処、強雨ノ為延引見合スト通告アリ。午后一時、哨艦ヨリ浅間、千歳、千代田帰港ス。暫時浅間ハ清舟ヲ捕獲シ捕虜ヲ有スル為附近ニアリ。後トヨリ入港ス可シト云フ。午後五時、浅間入港。同六時、同艦長来艦。哨艦中ノ報告ノ為又捕虜取調書報告セリ。

午后、第三軍參謀長ヨリ報知ニ第三軍攻撃ハ来ル二十五日比ヨリ進軍スト云フ。午後四隻ノ艦載水雷艇予定ノ如ク水雷沈置ヲ終リ帰港ス。外四隻ハ今夜沈置ニ進行ノ筈ナリ。

七月廿三日 霧

午前七時四十分、浦塩艦隊ハ山田港沖ニ游弋セルト報告アリ。第二軍ハ本日ヨリ大石橋方面ニ進行ヲ起スト云フ報告ヲ得タリ。午前、霞大島艦長来艦。昨日、鳩湾ヨリ出舟ノ清舟ヲ臨検シタルニ魯國將校二、下士一、清人一ヲ捕獲シ鎮遠ニ移ス。右ノ者ノ語ニ敵將クロバトキンノ伝令者タルコトヲ覺フ。參謀官ナラン。則チ宮口エ渡航ス途中ナリト云フ。同人ノ語ニシバステポル^(ステポル)ハ艦ノ前部ニ損害ヲ受ケ修理中。水雷ノ襲撃ノ結果ト思フ。午前十時、白雲着港。全部修理^(全部修理)寛全ナリト云フ。午前九時、敵島哨艦ニ出港ス。鎮遠帰港ス。魯國人捕虜ヲ三名、清人一ヲ旗艦三笠ニ送リ来ル。敵ノ事情ヲ糺ス。午後、艦載水雷艇四隻、昨夜布設水雷沈置ノ為進行シ無事帰港ス。又仮装砲艦ハ二隻帰港ス。外二隻ハ第一号砲艦敵弾ノ為損害ヲ受ケ、死者三名負傷者四人ヲ出シ、卒^(卒)シテ小平島エ寄港シ、仮修理ヲ加ヘ帰港ノ筈。夫レカタメ二隻ハ共ニアリ。午後六時、小平島ノ報告ニ敵ノ砲艦二隻掃海舟ヲ卒^(卒)ヒ鮮生角沿岸ニ有ルト云フ。午後、長井大佐ノ報

告ニ、昨夜旅順港外へ清舟ヲ流シ敵ヲ疑ハシム。凡ソ四十分余敵之レヲ砲撃スト云フ。

七月廿四日 霧 日曜

午前九時、小平島ヨリ敵ノ掃海隊港外ニ有ル、前日ノ如シ。午前十一時、艦載水雷艇三隻水雷沈置ノ為出港。富士、明石ノ艇外ニ一隻ナリ。午後、仮装砲艦一号外ニ一、水雷沈置ノ為進行シ砲艦帰艦セリ。一号砲艦ノ砲撃ヲ受ケタル、以テ艦體エ損害アリ。一昨日帰港ス可キノ処、小平島エ寄港。応急修理ヲ加ヘ本日帰港ス。午後、第六戰隊哨艦ノ為出港。八雲、千歳、高砂ト交代ス。午後、軍令部長ヨリ旅順港攻撃之件、大山総司令官エ電送スヘキ申来リ、又何日迄ニ陥落スル見込ナル哉ヲ問合セ通知スル様電信アリ。依テ殖田參謀ヲ派遣シ其ノ書信ヲ送ル事ニ決ス。落合第二軍參謀長ヨリ本日ヨリ大石橋方面ヲ進撃スルコト通知アリ。午後、敵島哨艦ヨリ帰港。又八重山ハ白島ト連続艦ニ出張中ノ所、白島ト長山列島電信接合ニ付帰港セリ。午後、第二艦隊九州南海ニ行動命シタルコト軍令部長ヨリ通信アリ。本職ヨリノ命令行動ハ津軽海峡方面ニ於テ敵ト会合ノ予定ナリシニ、軍令部長ヨリ命令先キ達シタル以テ、九州ヲ廻リ相州海迄進行セシト云フ。後トニテ報告アリ。

七月廿五日 霧

午前七時、第二軍參謀長落合少將ノ報知ニ、昨日ハ敵ト決戦セズ、本日進軍スト云フ電信アリ。午前十一時、艦載水雷艇六隻ヲ以テ旅順港口沖ニ水雷沈置ノ為進行ス。午后一時、敵島、松島、鎮遠水雷艇四隻出港。哨区向フ。明朝未明ヨリ第三軍総進撃ノ筈ナリ。午後ヨリ濟遠、平遠、赤城、鳥海水雷艇十二艇隊ノ内

二隻ヲ陸軍応援ノ為双台溝沖ニ廻航ス。此ノ応援之事ハ第三軍司令官ヨリ希望ニ応シ進行セシム。午后二時、軍令部長ヨリ電信ニ浦塩艦隊ハ防州勝浦沖ヲ東ニ航行スルト云フ報アリ。午後五時、総艦出港ス。濃霧ノ為長山島西方ニ碇泊。霧晴ルヲ待ツ。

七月廿六日

午前九時迄長子島沖ヲ出動スル能ス。午前九時、八雲ヨリ大隊ハ老鉄山沖ニ向ヒ航行スト報アリ。彼ノ方面ハ霧無シト思フ。午前九時、淺間、笠置ハ長子島ヨリ南西ニ碇泊スト云フ。敵島ノ隊ハ(第五戰隊)南三山島南七里ノ位置ニ有ルト云ト云フ。午前九時三十分、本隊ハ長子島碇泊地ヨリ拔錨、円島附近ニ出動ス。午前十一時、敵艦隊港口ヲ出ツルノ信号アリ。続テ敵ノ順洋艦隊鮮生角エ近寄り東灣ニ入ラントス。午后二時、我陸軍ノ左翼ヲ砲撃ス。第五戰隊敵島外三艦及第六戰隊之レニ次ク。敵艦隊ニ向進シ砲撃シタルニ、彼レハ砲火ヲ止メ港口方面ニ退却スト報告アリ。午後六時十五分、敵艦ハ港内ニ退却ノ信号アリ。午後六時三十分、千代田水雷ニ罹リ漏水少シクアリ。ラルニ一灣ニ避ケントス。秋津洲之レヲ応援スト云フ。

七月廿七日 曇漸ヤ晴ル

午前七時、円島沖ニアリ。午前十一時、敵島ヨリ敵艦出港。鮮生角東灣エ入ル。我陸軍ノ左翼ヲ砲撃ヲナス。我レ水雷ノ沈置ヲ憂エ、乍遺憾進行スルヲ得スト云フ。午后一時、陸地ヲ猛撃スルノ報告アリ。依テ春日、日進ヲ以テ応援ヲ命ス。小平島附近ニテ援護ス可キヲ命ス。午后二時三十分ヨリ敵艦ニ対シ砲撃ヲ始ムト云フ。敵ハテツトウ井ザン、ハヤーン、アスゴリツト、ノルウ井ク、ハラダ外ニ駆逐艦十二隻暫時ニシテ鮮生角内

方ニ退却セルト云フ。我隊ハ異情無シト。日進ヨリ報告ニ
デツトウ井ザン^(バヤン)エ一発ハ正ニ着弾ヲ認ムト云フ。
午後六時、敵ハ城頭山下ニアリ。依テ今夜時機ヲ見テ水雷駆逐
隊ヲ襲撃スル事ヲ命ス。午後、第二軍ハ大石橋ヲ占領スト報知
アリ。

七月二十八日 曇至テ穩

午前八時、円島附近ニアリ。午前八時、日進、春日ヲ小平島附近
ニ於テ陸軍ノ応援ヲ命ス。午前、敵島ヨリ陸上安子嶺方面ニ砲
声盛ナリト云フ。又十一時、報告ニ我カ軍大白山ヲ占領ス、敵
ト頻リニ砲撃最中ト云フ。

午前十時、扶桑ヨリ報知ニ大石橋宮口ヲ慥カニ廿五日占領セシ
ト云フ。敵ノ汽舟ハ上流ニ皆退却シタルト云フ。午前八時、第
七戦隊ノ濟遠、平遠、赤城、鳥海、山田司令ノ水雷艇二隻旅順
西岸ノ陸軍ヲ応援ノ為メ出動ノ任務ヲ終リ大連灣ニ帰港ス。本
日正午、第三軍ハ予定ノ位置ヲ占領ス。則チ安子嶺ノ高地及大
白山双台溝ノ線ナリ。敵艦ハ砲艦ノ外港外ニ出テス。午後十一
時、扶桑ヨリ第二軍ハ長嶺子及英客石ノ線ヲ占領セントスト云
フ。艦隊ノ行動ハ円島ヨリ威海衛沖ノ線ヲ午後日没ヨリ翌朝午
前三時迄航行シ円島沖ニ帰ル事ヲ例トス。之レハ敵艦ノ夜中出
動シ山東甲角ニ走ルヲ慮リ、夜明ニ及航シタル者ナリ、連日続
テ本日ノ如ク艦隊航路ヲ予定ス。各艦エ右之事ヲ命令ス。本日
ヨリ宮口エ紫^(紫)、愛宕、宇治水雷艇二隻ヲ回航スル事ヲ命ス。

七月廿九日 雨天

午前六時、円島ノ南方ニ在リ。
午前十時、扶桑ヨリ岩村參謀ノ報告ヲ次ク。第三軍ハ予定ノ位置

ヲ占領シ(此ノ地ハ長嶺子及英客石)、尚ホ鳳凰山ヲ占領セント
ス。午前、日没ヨリ艦隊ハ前日ノ如ク行動ヲ取ル。午前十一時、
第五、六戦隊ヲ二隻ツ、第三地点ニ至リ、石炭補充スルコトヲ
命ス。八重山、笠置、高砂今夕ニ出港ス可シ。浅間ニ合スルコ
トヲ命ス。午後六時、敵島ヨリ水雷艇駆逐艦ノ報告ニ、旅順港
口ハ濃霧ノ為明カニ見エス、港外ニハ砲艦二隻ヲ見ル、鮮生角
ヨリ南二里半ノ処ニ近寄り視察スレトモ明カナラスト云フ。

七月三十日 半晴

午前六時、円島北方ニ在リ。昨日ノ如ク行動を取る。午前九時
三十分、敵島ヨリ報告ニ昨夜艦載水雷艇ハ港口前面と鮮生角南
方ニ水雷ヲ沈置セシニ異情無シ、皆帰途ニ向フト云フ。午后、
紫^(紫)、愛宕、宇治十二艇隊ノ内ニ一隻宮口防備ノ為遣派ス。午后、
扶桑ヨリ岩村參謀ノ報告ニ、第三軍ハ予定ノ如ク鳳凰山ヲ占領
シ盛ニ敵ノ砲撃ヲ受クト云フ。午后、殖田參謀帰艦。滿洲總司
令官エノ電報ノ趣キハ、最早蓋平エ出發後ニ付、總司令官、參
謀エ渡シ、大山總司令官エ届ル事ヲ依頼セシト云フ。午后、哨
艦ノ情報ヲ聞クニ、敵ハ港内ニ蟄伏シ港外ニ見得ス。益々沈黙
スルノ情ナリ。

七月三十一日 日曜 半晴

午前七時、円島ノ西方ニ在リ。行動昨日ノ如ク敵ノ情況別ニ変ス
ルコト無シ。午後三時ニ鎮遠ヨリ第二駆逐隊ノ報告ヲ次ク。港
口^(近)ニギリヤーク形一ヲ見ル而已、他ニ港内ニ^(バルラーダ)見ゆる、
皆西港ニ在ルト云フ。午前十時、扶桑ヨリ次ク二軍令部次長ノ
電報ニ浦塩艦隊ハ昨日午后四時比ニ津軽海峡ヲ西行セシ事ヲ報
アリ。午后五時、艦載水雷艇九、仮装砲艦三、今夜旅順口外エ

水雷沈置ノ為行進ス。午后八時、艦隊ハ光緑島沖ニ仮泊ス。明朝、第三地点ニ至リ石炭ヲ積載方ヲナス筈。

八月一日 晴

午前五時、光緑島沖拔錨。第三地点ニ入ル。直ニ石炭積入ヲ始ム。午后二時、仮装砲艦昨夜水雷沈置ノ為メ進行シタル三隻及艦載水雷艇四隻第三地点帰港セリ。各艇悉ク予定ノ位置ニ沈置シタル報告ヲ得ル。他ノ艦載水雷艇四隻ハ今夜沈置スヘキ報アリ。午后五時、浅間入港。直ニ艦長來艦。哨艦中ノ報告アリ。直ニ石炭ヲ積入レ、明後日出港。哨区ニ出動ノ予定ナリ。本日、病院舟西京丸ヲ大連灣エ廻シ負傷者ヲ收容ノ筈ナリ。午前、第二軍參謀長ヨリノ報告ニ、海城ヲ占領ノ目的ヲ以進軍ヲ始ムト云フ。

八月二日 晴 朝霧

午前十時、第一戰隊及日進、春日、八重山監視ノ為出港ノ命令ヲナセシ時、濃霧起リ暫時出港ヲ中止シ、霧晴ル、待チテ出港ノコトヲ令ス。午前十一時、霧晴ル、直ニ出港ヲ命ス。旅順沖ニ向フ。午前十時、第一、二仮装砲艦帰港ス。指揮官ノ報告ニ、昨夜十一時、予定ノ位置ニ水雷沈置シ二艦共ニ異常ナシト云フ。午后二時、大連灣沖ニ於テ艦載水雷艇三隻水雷沈置シ帰途ニ出逢、行進ヲ止メ情況ヲ聞クニ、水雷艇ハ第三地点ニ向フト云フ。又水雷艇六十六号來リ敵情ヲ聞ク。別ニ異状ナキヲ報ス。富士艦載水雷艇一隻行衛不明索鹽中ナリ。

八月三日 晴

午前六時、円島ノ東方沖ニ在リ。天候静カナリ。午前八時、水

雷艇五十八号通信ヲ持來ル。午前九時ヨリ円島附近ニ於テ濤フ敵ノ情報ヲ待ツテ監視シツ、アリ。午後二時、浅間ヨリ報告ニ、去ル廿三日夜、鮮生角東灣ニ於テ敵ノ駆逐艦ヲ艦載水雷艇ヲ以テ攻撃シタル艦ハ「レフトナントブラコフ」「ポエウラス」ノ二隻ヲ撃沈シタル事、本日旅順ヨリ避ケタル捕虜ノ語ニ正ニ確實ナリト云フ。午后、扶桑ヨリ報ニ小平島西部ノ掃海隊ヲ砲撃スト云フ。掃海隊砲台ニ近接シタル者ノ被察候。午後三時、「レットウ井ザン」形一隻、敵ノ掃海隊ヲ先登ニシ鮮生角前迄出動セシモ、引返シ港口方面ニ至ルト云フ。巖島ヨリ報告アリ。

八月四日 晴

午前七時、円島南方沖ニ在リテ濤フ。敵艦ハ港内ニ蟄伏シ昨日ニ異ナルコト無シ。

午前七時三十分、八雲ヨリ報告ニ捕虜ノ語ニ「バアヤン」ハ水雷二舢レ「セパ、ステポール」ト東港ニ有水雷艇四隻舟渠ニ入ツテ修理中ナリ。他ハ西港ニ有ルト云フ。二十六日以来攻撃ニ敵ノ死傷三千ト云フ。捕虜ノ言ニシテ確カナラス。午后一時、扶桑ヨリ報告ニ仮装砲艦八号大連灣エ入港ノトキ機械水雷二舢レ陸岸ニ乗り揚ケ安全ヲ保ツ事ヲ得タリト云フ。又扶桑ヨリ報告スルニ第二軍ハ去ル二日、海城ヲ占領スト云フ。格別ノ抵抗力無しニ敵ハ遼陽ニ退却スト云フ。午后二時、英國駆逐艦ヨリ英艦隊參謀來艦。アトミラルノール氏ノ使ヲ以テ來ル。交戦中何レノ國ノ艦舟、威海衛并領海内エ來泊シタレハ、此ノ終結スル迄出港スル事ヲ許サスト云フヲ英政府ヨリ命令有リシ故、通知シ置クトノ事ナリ。午後七時ヨリ東ニ方向ヲ取り、明午前一時十六点ノ方向ヲ取り元位置ニ行進ス。午前六時、円島沖ニ來ル予定ナリ。

八月五日 晴

午前七時、田島沖南方ニ至ル。午前十一時、小平島ヨリ報告ニ昨夜水雷沈置ノ艦載水雷艦隊ハ予定ノ位置ニ沈置ノ上、今朝此ノ附近通過セリ。第一小隊ハ砲火ヲ受ケス。第二小隊モ猛烈ナル砲撃を受ルたれとも損害無シ云フ。午前十一時三十分、今朝駆逐艦ノ報告ニ港口ニチアナ形一、口外ニ小蒸汽舟ヲ以掃海スル者ノ如シ。港内ニ商舟ヲ見ルト云フ。午后八時、敵島ヨリ報告ニ石田第二駆逐隊司令ヨリ老鉄山沖ニテ十四隻ノ敵ノ駆逐艦ト交戦シ、暫時ニシテ彼レハ港内ニ退却セリ、我レニ損害ナシト云フ。此ノ以前ニ浅間ヨリ報告ニ老鉄山沖ニ於テ十隻ノ敵駆逐艦ト交戦シ、三隻ハ鳩湾ニ入り其ノ他ハ港内ニ退却ス。依テ高砂ヲシテ鳩湾方面ニ回航セシムト浅間艦長ヨリ報告アリ。午后、揚武ヨリ通信ニ捕虜五名ヲ佐世保ニ送ル為メ揚武工移ス。今夜、航路ハ昨日ノ如シ。東ニ航ス。

八月六日 晴

午前六時、田島沖南方ニ至ル。午前八時、浅間ヨリ報告ニ昨日夕、鳩湾ヨリ出帆ノ清舟ヲ臨検スルニ魯國人アリ。之レヲ捕虜トセリ。一隻ハ芝罘ヨリ食品ヲ積ミ旅順エ巨ル者ナルヲ以テ物品ヲ押取シ、人ハ芝罘エ帰港ス可キヲ命スト云フ。午后五時、敵島ヨリ旅順口外ニ於テ敵艦小蒸汽舟ト五隻ヲ以掃海ヲナシツ、アリ。又七時、掃海ヲ止メ敵艦悉ク港内ニ入ル。チヤナ形一隻港口ニ碇泊スト云フ。午后、細谷司令官ヨリ私信ヲ領取。○○○○○○○○等状報アリ。

八月七日 晴

午前六時、田島沖南方ニ至ル。八時迄敵ノ情況通知ナシ。午前十一時、鎮遠ヨリ哨艇ノ報告ニ港外ニ敵艦無ト云フ。午前十一時三十分、昨夜沈置ノ為進行シタル艦載水雷艇ハ敵ノ発見スル事無く、七隻共ニ予定ノ如ク沈置シタル事艇指揮官ヨリ報告ヲ得タリト云フ。午后、八雲ヨリ報告ニ拾四艇隊ヨリ鳩湾方面ヲ偵察シタルニ異情無シト云フ。午後、鎮遠ヨリ報告ニ港外ニチアナ形一碇泊、他ハ港内ニアリ、哨艦水雷艇ヨリ通告ス。時々陸上方面ニ砲声ヲ聞ク。又時々我カ砲彈海面ニ着弾ヲ見ユル報アリ。我海軍陸戦隊ハ旅順要所ヲ間接射撃ヲ始メルト云フ報アリ。

八月八日 曇半晴 雨晴計⁵度

午前六時、田島南方ニ有リ。澹フ。午前八時、岩村參謀ヨリ報告ニ昨日午后、軍ハ大孤山ヲ占領ス、敵ノ砲火時々發ス、我カ十二擲一砲身ヲ破リ使用ニ堪ヘス、補充砲直ニ送レタシト報アリ。敵艦ハ西港ニ見ユルハ「ツレサレウツチ」「ベレスウツト」「ポルタワ」在泊ス。時々彼レヨリ巨砲ヲ砲撃ス。其ノ他ノ艦ハ山陰ニ有ツテ不見得。出動ノ拳動無シト云フ。昨日、軍令部長ヨリ電信ニ營口ニ有ル魯艦「シウチ」ノ情況ヲ祝察ノ宇治ヲ上流ニ派遣セシム。直接命令シタリト通知アリ。午后、八重山ヲ第三地点ニ炭水補充ノ為回航セシム。午前十一時、小平島ヨリ報告ニ「ノルヴィイク」及駆逐艦十二隻鮮生角東湾ニ入ル。我カ軍ノ横面ヲ砲撃ス。依テ応援ノ為メ日進、春日ヲ小平島附近ニ至リ陸軍ノ応援ヲ命シタリ。午后一時、敵島ヨリ報告ニ小平島附近ニ接シタル「ノルヴィイク」及駆逐艦ハ砲準ヲ止メ退却シタルト云フ。日進、春日ハ午後六時三十分、本隊ニ合ス。午后七時三十分ヨリ東^東南^南ニ昨夜ノ如

ク行動ヲ取ル。
午后、軍令部長エ旅順陥落時日端縮云々ノ件ヲ答フ。

八月九日 半晴

午前六時、円島沖南方ニ至ル。昨日ノ如ク澹フ。午前七時、日進、春日ヲ小平島附近ニ至ラシメ鮮生角東湾エ敵ノ来襲ヲ防禦スル為メ進行セシム。

午前八時三十分、八雲ノ報告ニ港外ハ異情無シ。昨夜終夜、陸上ニ砲声聞エ。午前九時、日進ヨリ今帽島ノ沖ニ在リ、陸上ニ砲声盛ナリト云フ。

大孤山、小孤山ノ方面、彼我ノ交戦一昨日ヨリ連続砲戦アリ。午后、大沢中佐海軍省ヨリ出張来艦セリ。午后、敵島ヨリ山田司令官ノ旗艦ヲ橋立ニ移ス。敵島ハ大砲ニ故障ヲ生シ修理ノ為メ第三地点ニ至リ三日間ヲ要スト報告アリ。
本日夜中ノ航路ハ昨日ノ如シ。

八月十日 晴

午前六時、円島北方ニ澹フ。午前七時、「ノルビック」出港ノ報扶桑ヨリ通信アリ。昨夜中旅順背面ノ砲火ハ断ヘス頭ハル。午前六時、日進、春日ハ昨日ノ如ク小平島沖陸軍応援ノ為メ進行ヲ命ス。午前九時、扶桑ヨリ敵艦二隻出港。続ヒテ後トヨリ出港スル者ノ如シ。午前十時、敵艦隊ハ老鉄山下ヲ南ニ向フ、渤海湾エ出動ス、暫時ニシテ南西ニ向航スト報アリ。我カ艦隊ハ総艦隊ヲ出動セシメ遇岩ノ北方ヨリ南西ニ方向ヲ取り、暫時ニシテ敵艦隊ハ「ツレザレウ井ツチ」、「レットウイサン」、「ペレスウ井ツト」、「ポビエダ」、「シバステポル」、「ポルタワ」、「チアナ」、「バララタ」、「アスコリット」、「ノルビック」、水雷

艇八隻、病院舟一、艦隊ヲ縦陣シ出動シ来リ。

午后一時十五分、九千メートルノ巨離ニ近ク。彼我砲戦ヲ始ム。我カ隊列ハ縦陣ニシテ返航シツ、交戦シ、次キ十六点航路取り敵ト平行ニ運動ヲ取り、先頭ヲ押ユル為メ先キニ出テン事欲シ行動ヲ取ル。竟ニ日入ニ至リ、夜ニ入り水雷艇、駆逐艦ヲ突撃ヲ命ス。本隊ハ敵ノ脱出ヲ慮リ山東角沖ニ行動ヲ取り、白翎島沖方面ヲ翌朝警戒ヲ期シ運動ヲス。翌朝返航シテ敵ヲ索偵シツ、旅順沖ニ向フ。

八月十一日 半晴

午前六時、旅順沖ニ向キ返航ノ途中、敵ノ駆逐艦一隻ヲ見ル。直ニ春日ヲシテ追撃セシメタルモ山東角沖ニ向キ疾走シタリ。

午前十時、松島ヨリ報告ニ「デツトウ井ツチ」、「ペレスウ井ツト」、「ポビエダ」、「シバステポル」、「ポルタワ」、「バララタ」六隻港内ニ入ルト通信アリ。「アスコリット」、「ノルビック」ハ第六戦隊ノ襲フ途中、仁川沖ニ於テ所在ヲ失シタルト通信アリ。又駆逐艦二隻ハ海州邑沖ニ於テ千年追襲セシモ、竟ニ浅海ノ方ニ走り、追撃スル事ヲ得スト云フ。他ノ第四戦隊及第六戦隊ハ黒山島方面ニ追襲セシモ、敵ノ逃走何レニ航シタリ乎分カラスト云フ。千歳ハ白翎島沖ニ於テ命ヲ待タシム。八雲、高砂、笠置ハ第三地点ニ向フ。午后十一時、光緑島沖ニ錨ヲ入ル。仮泊ス。明朝五時、抜錨。第三地点ニ向フ筈。

八月十二日 晴

午前五時、錨ヲ揚ケ第三地点ニ入港ス。直ニ弾薬炭水ヲ補充シ艦体各部損所修理ニ着手ス。午后、軍令部長ヨリ敵艦アスコリット、ノルビック、水雷艇一、膠州湾エ至リ炭水ヲ積

入ツ、有ルト通知アリ。午后、浅間、千年、高砂、駆逐艦一隊、膠州湾外監視ノ為出羽司令官ヲ幸ヒ派遣セシム。旅順港外ノ監視ハ笠置及第五戦隊水雷艇、駆逐艦隊ヲ以テ配備ノ如ク順次ニ警戒セシム、敵艦ハ旅順港内ニ入りシ後チ艦隊ハ出テス。掃海ハ時々行フ。

八月十三日 晴

午前四時、敵艦脱出ノ伝信ヲ感シ急行出艦ヲ命令シタルモ、伝信ノ誤マリヲ発見シ之ノ命令ヲ消ス。午前十時、「ツェザレウイツチ」膠州湾ニアリシ事通知アリ。之レ迄ハ撃沈セシ者ト想像シ居ル。午後三時、「アスコリット」、水雷艇一隻、上海ニ入港シタルコト通知アリ。

第一駆逐隊ハ昨日午前五時、芝罘港ニテ敵ノ駆逐艦一隻捕獲シ、「タルニー」湾ニ入港シタルト云フ。今日午后、駆逐艦司令報告ニ來艦ス可シ通知アリ。午后、第四戦隊ヲ上海エ在泊ノ敵艦「アスコリット」ヲ処分ノ為派遣ノ命令ヲ發ス。午后、千年ヲ第二艦隊ニ属セシムル事ヲ命ス。

八月十四日 曇 小雨

午前八時、竹敷要港司令官ヨリ午前五時、浦塩艦隊対州東方ニ來リ、第二艦隊発見シタリ、其ノ後ノ通信ニ午前十時十五分、盛ニ同方面ニ砲声盛ナリ、第四戦隊モ合同セル者ノ如シ、午前十一時比ニ砲撃止ムノ通信アリ。其後ノ情報無シ。午前、上海領事ヨリ通信ニ「アスコリット」ハ小蒸気舟ヲ以テ「サツドル」島沖合ニアル大形軍艦三隻、小形艦二隻漂泊ノ魯艦工交通ヲナシツ、有ルノ通信アリ。又膠州湾ヲ昨日出港シタル三隻ノ駆逐艦ハ再度入港セルト云フ。及膠州湾病院エ入港ノ某少将ハ死去

スト云フ。現在入院者ハ少将一名、艦長ト外ニ九名ト通知アリ。午后、岩村参謀來リ旅順ノ敵工降服ヲ進メル事件、第三軍司令官ヨリ協議ニ付、同意ヲ表シ伝信ヲ以テ返信ヲ出ス。